

2023 年度 事業報告書

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)



目次

理事長挨拶	1
I. 法人概要	
1. 学校法人の沿革	4
2. 大学の理念	8
3. 大学運営組織図	10
4. 役員・評議員の概要	11
5. 設置する学部学科・研究科の名称及び 入学定員・入学者数・収容学生数・専任者数	13
II. 事業の概要	
1. 第五次中期計画の重点課題と基本課題を中心とする主要事業	14
2. 地域貢献事業	24
3. 学生活動の実績	34
4. 学事報告	37
III. 事業の概要（データ）	
1. 志願者数・合格者数・入学手続者数	40
2. 入学金、授業料等の費用	40
3. 学内奨学金支給実績	41
4. 単位互換協力校との派遣・受入状況、留学生の受入状況	42
5. 主な資格取得状況	43
6. 就職率	43
7. 卒業生数・修了者数	43
8. 卒業生数累計	43
IV. 財務の概要	
1. 資金収支計算書	44
2. 事業活動収支計算書	45
3. 貸借対照表	46
4. 経年比較表 ①資金収支計算書 ②事業活動収支計算書 ③貸借対照表	48
5. 主要な財務比率	52
6. 事業活動収支関連グラフ	53

理事長挨拶

2023年度の事業報告にあたりご挨拶を申し上げます。

平素は関係者の皆様方には、多くの御指導、御協力、御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学は2018年の創立60周年に沖縄大学憲章の実現を目指した長期ビジョン「Okidai Vision 2028」を掲げ、10年後の将来像を見据えた第五次中期計画を同時に策定し、自己点検・評価活動に基づく教育の質保証を推進してきました。

2019年度～2023年度の5年間で取り組んだ第五次中期計画では、本学の特色を伸ばし、「地域共創・未来共創の大学へ」の理念の実現につながる事業計画を「重点課題」、大学としての基盤を堅実に維持するための事業計画を「基本課題」と位置づけて教育活動や業務を推進しました。

長期ビジョンで掲げる「地域がキャンパス、地域のキャンパス」の将来像の実現に向けた第五次中期計画最終年度の「2023年度事業報告書」がまとまりましたので、以下概況を御報告致します。

(1) 収支財政状況

2023年度事業活動収入の合計は2,785百万円（前年比53百万円減、予算比27百万円増）、事業活動支出は2,658百万円（前年比67百万円減、予算比77百万円減）となりました。

基本金組入前当年度収支差額はプラス126百万円となり、本業である教育活動収支差額は、プラス189百万円でした。

収入においては、学生募集が引き続き堅調に推移していることもあり、学生生徒納付金収入は前年比2百万円増、予算比33百万円増となりました。支出では、教育研究活動等に係る経費は前年度並みでしたが、人件費において退職者が前年度（2022年度）より少なかったため、退職給与引当金繰入額が減となり、教育活動支出全体としては前年比122百万円減となりました。

今年度の事業活動収支差額比率は、プラス4.6%です。同比率の推移を見ますと、2021年度はプラス1.7%、2022年度はプラス4.0%、今年度（2023年度）はプラス4.6%と若干ではありますが、黒字幅が上昇しました。今後は10%以上を達成・維持できるよう、入学者の安定確保や退学率の削減、競争的補助金の獲得、経費の見直し等を行い、経営基盤の強化と教育環境の維持改善に努めてまいります。

(2) 「地域共創」の取り組み

2023年度も「地域共創・未来共創の大学へ」の理念の体現につながる連携協定が多数締結されました。学生交流および学術交流を図ることを目的とした龍仁大学校（韓国ヨンイン市）との連携協定、学生のエアライン業界への就職強化を目的としたANAビジネスソリューション(株)との教育連携協定、寄付講座「沖縄労働論」の提供にかかる連合沖縄との協定締結、共に地域の課題に取り組み、よりよい社会の実現を目指す那覇市議会との包括連携協定など、企業や行政等



学校法人 沖縄大学
理事長 佐喜真實

との連携を通じて学生の育成につなげる新たな枠組みが生まれました。

那覇市議会との協定に基づいて開催された「那覇市の未来共創ワールド・カフェ～学生&議員・教員～」では、国際コミュニケーション学科1年次ゼミで5つのテーマ（日本語支援、英語教育、国際文化交流、観光、児童福祉）のグループに分かれ、那覇市の抱える問題や改善案などを話し合い、議員の皆様と交流する有意義な機会となりました。

（3）各学科における取組と成果

国際コミュニケーション学科の末吉ゼミでは、那覇市観光協会と連携した「那覇の魅力発信事業」に取り組み、インバウンド向けのコンテンツ『Okinawa Accher Accher in NAHA』を完成させて那覇市観光協会 WEB サイトに提供しました。

福祉文化学科の宮本ゼミでは、日本レクリエーション協会主催「チャレンジ・ザ・ゲーム日本記録会」で「全身むかでタイムレース」の種目に参加し、8年ぶりの記録更新となる日本一の記録を出しました。

管理栄養学科の新垣ゼミでは、那覇市内のこども食堂と連携して弁当の無料配布や手軽に作れるレシピの考案及び普及活動等を実施し、食の面でのこどものサポートが評価され、農林水産省主催第7回食育活動表彰において審査委員特別賞を受賞しました。

こども文化学科が開催したこども文化学会には、在学生だけでなく、多くの卒業生も参加し、「教育現場におけるハラスメント対応～小学校教員に求められていること、加害者にも被害者にも傍観者にもならないために～」をテーマに学生や卒業生、教員が学びを深め共有する時間を持ちました。

また、体育会では、地域との連携構築を見据えて国場地区自治会と協働した大規模な清掃活動を実施し、福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻も琉球コラソンと連携して「e スポ GOMI with 琉球コラソン in 沖縄大学」を開催するなど、地域と連携した取り組みを実施しました。

地域の課題を発見し、その解決策をあみだす実践的な取り組みは、学生の「主体的な学び」を呼び起こし、地域の皆様や卒業生が本学に集い、教職員や学生と共に学ぶ機会を得られたことは、長期ビジョンに掲げる「地域がキャンパス、地域のキャンパス」の将来像の実現につながったと考えております。

（4）学生の活躍

2023年度も学生達が素晴らしい成果を上げました。男子バスケットボール部は沖縄県大学バスケットボール選手権大会で第30、31回の2大会連続優勝、硬式野球部は第110回九州地区選手権南部九州ブロック大会沖縄地区予選で優勝、軟式野球部は第46回全日本大学軟式野球選手権大会でベスト8、水球部は日本学生選手権水球競技大会九州予選会で連覇して2年連続で全国大会出場、陸上競技部は日本学生陸上競技選手権大会に2年連続出場、女子サッカー部は「沖電工杯 OFA 第57回沖縄県サッカー祭り・女子の部」で3位、吹奏楽部は第48回沖縄県アンサンブルコンテスト「管楽四重奏」部門で3年連続の金賞受賞となりました。

また、「全国障害者スポーツ大会」に兼村星哉さん（福祉文化学科社会福祉専攻1年次）がボッチャ競技に出場して金メダルを獲得し、津曲颯斗さん（福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻2年次）もチームスタッフとして帯同しました。

教員採用試験についても、こども文化学科と教職支援センターとが協働して 54 名（現役 24 名、過卒 30 名）が合格し、管理栄養士国家試験では 53 名（現役 52 名、過卒 1 名）が合格することができました。

2019 年度～2023 年度の 5 年計画で推進してきた第五次中期計画の間中は、3 年に及ぶコロナ禍の影響で計画の見直しを余儀なくされましたが、今できることに目を向けて取り組みを進めたことで、遠隔で講義や会議を行う知見を深めるなど、新たな視点を得ることができました。

2022 年度以降はコロナ禍で実施できなかった「地域がキャンパス、地域のキャンパス」の将来像の実現につながる様々な活動を再開し、2023 年度はその流れを加速化させることができました。2024 年度～2028 年度に推進する第六次中期計画では、この勢いを受け継ぎ、第五次中期計画で得た経験知を活かして PDCA サイクルを回すことで長期ビジョンの達成を目指します。

学生・保護者、社会の期待に応えられるよう役職員一体となって歩みを進め、学生の「夢創造・夢実現」につなげていきたいと考えておりますので、今後とも関係各位の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

* 文中の金額は単位未満切り捨てで表示

I. 法人概要

1. 学校法人の沿革

- 1956年 11月 財団法人 嘉数学園設立認可
- 1958年 6月 沖縄短期大学開学式
- 1960年 12月 学園本館、図書館竣工
- 1961年 2月 沖縄大学設置認可、沖縄短期大学は沖縄短期大学部へ変更
- 4月 沖縄大学入学式
- 5月 沖縄大学開学祝賀式典
- 1962年 2月 嘉数学園創立5周年記念式典
- 4月 大学ビル竣工
- 1964年 9月 学生会館竣工
- 1966年 11月 西原総合グラウンド完成
- 1968年 11月 沖縄大学創立10周年記念式典
- 1972年 10月 全国大学準硬式野球大会優勝
- 1974年 12月 公開講座開始
- 1976年 1月 土曜教養講座開始
- 2月 移動市民大学開始（宮古・八重山）
- 1978年 4月 「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」の理念を打ち出し、新生沖縄大学として再出発
- 1979年 2月 入試制度改革
- 4月 本土派遣学生制度発足（立命館大学、上智大学）
- 4月 「沖縄大学広報」創刊号発行
- 1981年 4月 本土派遣学生制度（法政大学）
- 4月 4ヵ年一貫ゼミナール体制の確立
- 6月 沖縄大学創立20周年及び沖縄短期大学23周年記念祝賀会
- 7月 創立20周年記念事業「教育実践セミナー」開催
- 1982年 9月 琉球弧縦断移動市民大学開始
- 1983年 7月 「沖縄戦と基地問題を考える沖縄セミナー」開始（1990年度まで実施）
- 1984年 11月 第100回土曜教養講座
- 1985年 2月 1号館竣工
- 2月 津田塾大学と単位互換協定締結
- 1988年 4月 沖縄短期大学を沖縄大学短期大学部に名称変更
- 6月 沖縄大学創立30周年記念式典同記念事業「沖大地域研究所の設立」及び「沖大後援会奨学金及び特別奨学金制度の創設」
- 1989年 11月 2号館・図書館棟竣工
- 11月 体育館移管
- 1990年 3月 札幌大学と単位互換協定締結

- 1991年 3月 旭川大学と単位互換協定を締結
- 3月 和光大学と単位互換協定を締結
- 4月 中国・中央民族大学と学術・教育交流協定を締結
- 5月 沖縄大学と沖縄尚学高校を経営する法人の分離
- 6月 第200回土曜教養講座
- 7月 「沖縄大学広報」50号発行
- 1992年 12月 京都精華大学と単位互換協定を締結
- 1996年 12月 法経学部法経学科設置認可
- 1997年 1月 放送大学と単位互換協定を締結
- 1997年 4月 法経学部法経学科の開設
- 1998年 12月 人文学部国際コミュニケーション学科・福祉文化学科設置認可
- 1999年 3月 3号館竣工
- 4月 人文学部国際コミュニケーション学科・福祉文化学科の開設
- 8月 岐阜経済大学と単位互換協定を締結
- 10月 沖縄大学マルチメディア教育研究センター設立
- 2000年 4月 シスコ・ネットワークング・アカデミー開講
- 7月 台湾・東海大学と学術・教育交流覚書を締結
- 2001年 5月 韓国・聖公会大学と学生交流及び学術交流協定締結
- 10月 沖縄大学エコキャンパス宣言
- 2002年 4月 第1回ジュニア研究支援
- 5月 国際規格ISO14001（環境マネジメントシステム）審査登録
- 2003年 1月 シドニー工科大学と学生交流協定を締結
- 4月 早期卒業制度、長期履修制度の導入
- 4月 寄付講座規程制定
- 4月 (財)大学基準協会正会員登録
- 2004年 1月 東京国際大学と単位互換協定を締結
- 5月 法政大学と単位互換協定を締結
- 11月 「沖縄大学広報」100号発行
- 2005年 4月 沖縄大学大学院 現代沖縄研究科を開設
- 7月 茨城キリスト教大学と単位互換協定を締結
- 7月 第一次中長期経営計画（2005～2007年度）を策定
- 2006年 4月 学生部に学生生活支援室を新設
- 6月 広島修道大学と単位互換協定を締結
- 2007年 3月 大学基準協会認証評価・相互評価
- 4月 人文学部こども文化学科の開設
- 7月 「菓子等食品ビジネスプランナー養成プログラム」が文科省の社会人学び直しGPに採択
- 7月 「美ら沖縄・環境まちづくりリーダー養成事業」が文科省の現代GPに採択
- 8月 「ノートテイクから広がる大学づくり」が文科省の特色GPに採択

- 「学びあい・支えあいの地域教育の拠点創生」が文科省の学生支援 GP に採択
- 2008年 5月 西安交通大学との友好交流協定を締結
- 6月 開学記念日 沖縄大学 50 周年記念式典・祝賀会
- 6月 新沖縄大学宣言「地域共創・未来共創の大学へ」
- 6月 創立 50 周年記念史『小さな大学の大きな挑戦』を刊行
- 11月 第二次中長期経営計画（2008 年度～2010 年度）を策定
- 2009年 8月 第一回教職合同研修会を開催
- 8月 「産学連携業界別就職特別セミナーの開設」が文科省の学生支援 GP に採択
- 8月 「全国の地域で活躍できるプロフェッショナルくまづくりリスト」育成プログラム」が文科省の戦略的産学連携支援プログラム（戦略 GP）に採択
- 9月 「清ら島づくり南西諸島高大連携プログラム」が文科省の大学教育推進プログラム（学生支援 GP）に採択
- 2010年 1月 「学校法人沖縄大学」へ法人名変更
- 5月 「沖縄県福祉のまちづくり推進功労者」沖縄県知事賞受賞
- 6月 新本館・体育館竣工記念式典・祝賀会
- 11月 上海・東華大学との学術交流協定を締結
- 2011年 6月 台湾・金門大学との学術交流協定を締結
- 7月 第三次中長期経営計画（2011～2013 年度）を策定
- 5月 那覇市制施行 90 周年記念特別表彰「教育・スポーツ功労部門」 表彰
- 2012年 4月 「地域共創センター」開設
- 4月 人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻、スポーツ福祉専攻の 2 専攻へ
- 7月 第 56 回沖縄タイムス賞・社会活動賞受賞
- 10月 新沖縄大学宣言「地域共創・未来共創の大学へ」を沖縄大学憲章へ改称
- 11月 第 500 回土曜教養講座開講
- 2013年 4月 経営企画室を新設
- 2014年 2月 学生歌「未来に続く学舎で」（作詞：糸澤幸子 作曲：知花竜海）制作
- 3月 大学基準協会認証評価・相互評価により大学基準適合認定（2014～2021 年度）
- 3月 第四次中長期経営計画（2014 年度～2017 年度）を策定
- 2015年 2月 那覇市と学校法人沖縄大学との包括連携協力に関する協定を締結
- 2月 日本聴覚障害高等教育支援ネットワークに加盟
- 4月 図書館にライティングセンターを設立
- 11月 私立大学等改革総合支援事業タイプ 2「地域貢献」選定
- 2016年 2月 留学生別科閉科
- 11月 私立大学研究ブランディング事業（タイプ A）採択
- 2017年 1月 沖縄大学アネックス共創館及び隣接小グラウンド、整備開始
- 3月 私立大学等改革総合支援事業タイプ 1「教育の質的転換」選定
- 4月 沖縄大学アネックス共創館 供用開始
- 6月 関東学院大学と大学間交流協定締結
- 2018年 2月 私立大学等経営強化集中支援事業（タイプ A） 選定

- 2018年 6月 学生食堂『TERRACE 555』オープン
6月 沖縄大学創立60周年記念式典・祝賀会
6月 歴史資料展示エリア設置
6月 沖縄大学長期ビジョン『OKIDAI VISION 2028』骨子策定
8月 健康栄養学部管理栄養学科 設置認可
11月 創設者「嘉数昇」先生胸像設置
12月 4号館（新学部棟）竣工
- 2019年 2月 私立大学等経営強化集中支援事業 選定
3月 長期ビジョン OKIDAI VISION 2028 を策定
3月 第五次中期計画（2019年度～2023年度）を策定
4月 健康栄養学部管理栄養学科の開設
- 2020年 3月 長田第四駐車場完成
4月 法経学部法経学科を「経法商学部経法商学科」に名称変更
- 2021年 3月 長田第五駐車場完成
2021年 4月 法務監査室を新設
2021年 12月 アネックス共創館3階・4階改修工事完了
2022年 11月 1号館5階改修工事完了
2024年 3月 第六次中期計画（2024年度～2028年度）を策定

2. 大学の理念

沖縄大学憲章

～地域共創・未来共創の大学へ～

沖縄大学は、創立 50 周年の記念日を迎えるにあたり、「地域共創・未来共創の大学へ」を新たな大学の理念として確認し、以下の 3 つの目標を立て、実行することを宣言しました。

1. 地球市民・地域市民の共育の拠点

(1)地球市民のための知の集積の拠点:

沖縄大学の大学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21 世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす 21 世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。

(2)地域市民のための地域教育の拠点:

沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります。また、県都那覇市にある大学として、「人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点」となることをめざします。

2. 地球環境・地域環境に貢献する教育研究

(1)地球環境に取り組む実践教育:

21 世紀は、環境危機が深刻化する世紀です。地球温暖化が進行すれば、沖縄の未来も、世界の未来もありません。沖縄大学は、「エコキャンパスからエコシティへ」というスローガンを掲げる大学として、まず足元のキャンパスから始め、沖縄から世界に向けて地球温暖化防止の実践教育を展開します。

(2)地域環境に取り組む研究提言:

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間 150 兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのために沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。

3.共創力を育む大学教育への変革

(1)ユニバーサルな大学づくり:

現代の大学には障がいのある学生を含め多様な学生が入ってきます。沖縄大学は学生の力に依拠しつつ大学の責任を果たし、多様な学生の学びと育ちを支援するユニバーサルな大学づくりをめざします。

(2)人間力としての共創力の涵養:

沖縄大学が育成をめざす 21 世紀型市民とは、「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」、「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」です。こうした 21 世紀型市民として学生を育成するために、沖縄大学の教育課程の編成にあたっては、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」を重視します。アジアの人々との共生の基盤となる異文化への関心 と理解力を高めます。

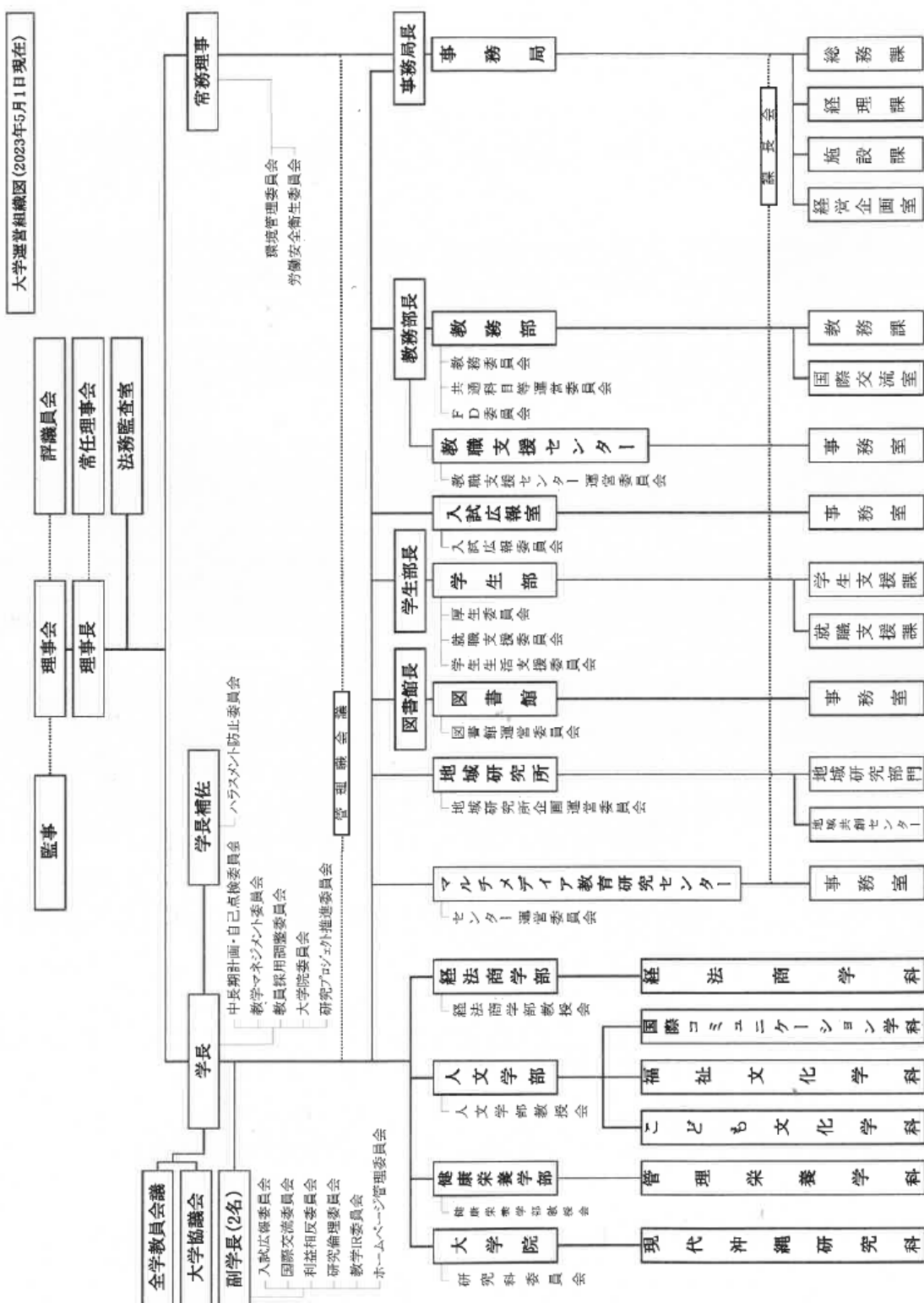
「競争力から共創力へ」、このスローガンのもと沖縄大学は、学生たちが互いに助け合い、教えあい、育ちあう環境を整備し、対話力・共創力・実践力のある人間の育成に努めます。

(3)学生主体の学びの場の共創:

人は、教えられることによって育つよりも、むしろ試行錯誤を含めた実践を通じて自ら学ぶことにより育つものです。従って 大学づくりにおいては、学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て更に活力のある沖縄大学へと自己変革していきます。学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会から勝ち得ていきます。

沖縄大学は、以上の 3 つの目標の実現に日々努め、地域共創・未来共創の大学に向け邁進します。

3. 大学運営組織図



4. 役員・評議員の概要

(1) 役員・評議員

2024年3月31日現在

	氏名	担当職務・現職	選出根拠
理事	佐喜真 實	学校法人沖縄大学 理事長	学識経験者
	山代 寛	学長（健康栄養学部教授）	学長
	金城 敬	学校法人沖縄大学 常務理事	評議員
	黒木 義成	副学長（人文学部教授）	評議員
	崔 珉寧	副学長兼図書館長（経法商学部教授）	評議員
	森田 泰弘	学長補佐（法務監査室 室長）	評議員
	當真 良明	弁護士法人サイオン総合法律事務所代表弁護士	学識経験者
	仲里 武思	沖電開発株式会社 代表取締役社長	学識経験者
	高良 茂	㈱沖縄銀行 常務取締役	学識経験者
	喜納 憲利	元㈱りゅうせき常勤監査役 元㈱未来相互ガス監査役	学識経験者
監事	外間 政康	㈱沖縄海邦銀行 常勤監査役	寄附行為第7条
	島袋 健	㈱琉球銀行 代表取締役専務	寄附行為第7条
評議員	喜納 憲利(議長)	元㈱りゅうせき常勤監査役 元㈱未来相互ガス監査役	学識経験者
	山代 寛	学長（健康栄養学部教授）	学長
	黒木 義成	副学長（人文学部教授）	副学長
	崔 珉寧	副学長兼図書館長（経法商学部教授）	副学長
	豊川 明佳	法経学部長（経法商学部教授）	学部長
	渡邊ゆきこ	人文学部長（人文学部教授）	学部長
	下地みさ子	健康栄養学部長（健康栄養学部准教授）	学部長
	嘉数 健悟	教務部長兼教職支援センター長（人文学部教授）	教務部長
	大城 貴之	学生部長（就職支援課長）	学生部長
	金城 直樹	事務局長（経営企画室長）	事務局長
	城間 尚樹	沖縄大学図書館事務長	職員
	大城 達司	沖縄大学施設課 課長	職員
	金城 正弘	沖縄大学同窓会顧問	卒業生
	山城 成人	久米島製糖㈱ 取締役	卒業生
	棚原 勝也	沖縄大学同窓会長 琉球朝日放送㈱ 営業ビジネス統轄本部編成局 編成局次長兼編成部長	卒業生
	佐喜真 實	学校法人沖縄大学 理事長	学識経験者
	金城 敬	学校法人沖縄大学 常務理事	学識経験者
	森田 泰弘	学長補佐（法務監査室 室長）	学識経験者
	金城 正秀	株式会社沖縄銀行 監査部 上席検査役	学識経験者
	宮沢 賢	宮沢財務管理オフィス株式会社 代表取締役	学識経験者
照屋 正	医療法人涼音会 理事 整形外科てるクリニック事務長	学識経験者	

(2) 役員賠償責任保険契約の状況

1. 団体契約者： 日本私立大学協会
2. 保険責任期間： 2023年4月1日～2024年4月1日
3. 記名法人名： 学校法人沖縄大学
4. 被保険者
 - ・個人被保険者： 理事・監事、評議員、理事会で選任した管理職従業員（事務局長）
 - ・記名法人： 学校法人沖縄大学
5. 補償内容
 - 法律上の損害賠償金、争訟費用、損害賠償請求対応費用、公的調査等対応費用、刑事
手続対応費用、財産または地位の保全手続等対応費用、信頼回復広告費用
6. 保険期間中総支払限度額： 3億円
7. 引受保険会社： 東京海上日動火災保険株式会社

5. 設置する学部学科・研究科の名称及び

入学定員・入学者数・収容学生数・専任者数

2023年5月1日現在

設置する 学校名	学部	学科	入学 定員	入学 者数	編入学 定員	編入学 者数	収容学生数		専任者数	
							定員	現員	教 員 数	職 員 数
沖縄大学	経法 商 学部	経法商学科	220	272	5	2	890	1,039	72	56
	人文 学部	国際コミュニケー ション学科	80	86	3	0	326	346		
		福祉文化学科	120	152	6	8	492	540		
		こども文化学科	50	52	3	5	206	228		
	健康栄 養学部	管理栄養学科	80	82	若干名	0	320	323		
	計		550	644	17	15	2,234	2,476		
	大学院	現代沖縄研究科	10	0	—	—	20	4		

Ⅱ. 事業の概要

1. 第五次中期計画の重点課題と基本課題を中心とする主要事業

～沖縄大学憲章、長期ビジョンの実現に向けた事業計画～

沖縄大学は2018年の60周年の節目に、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」の実現に向けてどのような取り組みを進めていく必要があるのか検討を行い、憲章を実現するための10年間の長期ビジョン『OKIDAI VISION 2028“地域がキャンパス、地域のキャンパス”～沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります～』を打ち出しました。

長期ビジョンの策定にあたっては、沖縄大学憲章の「地域共創・未来共創の大学へ」の3つ目標（1. 地球市民・地域市民の共育の拠点 2. 地球環境・地域環境に貢献する教育・研究 3. 共創力を育む大学教育への変革）を具体化した3つの将来像（1. 沖縄大学という場 2. 沖縄大学の教育・研究 3. 沖縄大学の学生像）と、社会情勢に合わせた新たな共創に挑戦する将来像（4. 沖縄大学の新たな挑戦）の4つのテーマを掲げました。

【沖縄大学憲章】

- ・ 沖大憲章 1. 地球市民・地域市民の共育の拠点・・・・・・・・・・1. 沖縄大学という場
- ・ 沖大憲章 2. 地球環境・地域環境に貢献する教育・研究・・・・2. 沖縄大学の教育・研究
- ・ 沖大憲章 3. 共創力を育む大学教育への変革・・・・・・・・・・3. 沖縄大学の学生像
- ・ 社会情勢に合わせた新たな共創に挑戦する将来像・・・・・・・・4. 沖縄大学の新たな共創への挑戦

【長期ビジョンのテーマ】

また、この長期ビジョンを実現するために、5年間の中期計画（第五次中期計画）を同時に策定しました。中期計画においては、沖縄大学憲章をふまえた長期ビジョンの4つのテーマを、沖縄大学の特色を打ち出す「重点課題」としてしています。

一方で、大学は理念に向けて日々努力を積み重ねるだけでなく、理念を実現するためにも大学としての基盤を堅実に維持しなければならないというミッションも持っています。そのため、「激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化」についても、長期ビジョンで取り組むテーマとしてしています。第五次中期計画では、第四次中長期経営計画で掲げられていた「基本戦略」を引き継ぎ、大学の基盤を固めるために必要な「基本課題」としてしています。

「重点課題」と「基本課題」の各テーマは、中期計画に即した各年度事業計画で計画・実施し、事業の進捗については4段階で管理しています（0未着手、1問題有、2順調、3終了）。

■ 「重点課題」・・・長期ビジョンが掲げる「1. 沖大という場」「2. 沖大の教育・研究」「3. 沖大の学生像」「4. 沖大の新たな共創への挑戦」の4テーマ

■ 「基本課題」・・・「A志願者」「B中退者」「C社会接続」「D経営基盤」の4テーマ

第五次中期計画の最終年度にあたる2023年度も学科、研究科、部課局等の部署のレベルにおいて「重点課題」と「基本課題」の両面から計画を立て、事業に取り組みました。

重点課題1. 沖大という場 ～地球市民・地球市民共育の拠点～

<人文学部 国際コミュニケーション学科>

- ・「那覇市の未来共創ワールド・カフェ」を実施し、那覇市議と学生の交流事業を行うことができました。
- ・2日間の学内オリエンテーションを実施しました。在学生スタッフを中心に履修指導やレクレーションなどを行い、新入生同士の繋がり構築につなげました。

<人文学部 福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・地域社会貢献活動として、1年次と2年次の地域におけるボランティア活動を実施しました。2年次は、基礎演習の合同ゼミでボランティア活動の心得や意義などについて、社会福祉の専門家の講習の後、ボランティア活動に参加しました。
- ・学生支援課及び教務課との連携協力により、身体障がいのある学生の就学支援を継続しました。学科会議では、障がい学生を支援している学生支援課職員と支援に関する情報共有及び役割分担などについて協議を行いました。

<人文学部 福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻>

- ・沖縄県内で小学生を指導するスポーツ指導者（コーチ）を対象にした調査を実施し、紀要にて成果を公表しました。「コーチの質保証」に向けた体制づくりとして高体連との連携を継続しました。
- ・豊見城市社会福祉協議会 真嘉部コミュニティーセンターで「子ども広場」、「学習支援」の児童支援を実施しました。
- ・障がい者スポーツ指導員中級資格希望者へのボランティア情報の提供と斡旋を継続して実施し、指導者養成に寄与しました。
- ・地域のクラブと交流するボッチャ大会や、ソフトボールの交流プログラムなど、障がい者スポーツイベントを実施し、県内の障がい者スポーツ活動を推進しました。
- ・ゼミ活動として県内のLGBTQ+支援団体と合同研修を行いました。
- ・県総合教育センターで教員対象にジェンダー・セクシュアリティの発達と教育相談について講座を開催しました。（こども園～高等学校）

<人文学部 こども文化学科>

- ・学生が DP に即して自己評価するために「2年次・4年次用 学修進路相談チェックシート」を実施しました。
- ・Zoomを併用したハイブリッド形式での学科行事（卒論発表会等）を行いました。準備・運営が難しい側面もあり、過密スケジュールと過重な準備を、いかにバランスとるか課題がある中、ゼミ長会およびゼミ長が企画・運営を立派に果たしました。
- ・県外・離島出身学生へのサポートを教員間の情報共有を基盤に進めました。

<健康栄養学部 管理栄養学科>

- ・地域公開講座を実施しました。（下地研究班：食品ロス削減食育研究：食べる力、生きる力、取り組む力、宮良研究班：島ゴショウの6次産業化による地域づくり）
- ・那覇市社会福祉協議会と連携を図り、こども食堂の支援を行いました。

<国際交流室>

- ・ホーチミン市師範大学（協定校）より、2名の学生を受け入れました。
- ・沖縄地域留学生推進協議会主催の親善高交流会に参加し、他大学の留学生と交流を行いました。

<学生支援課>

- ・保健室、学生生活支援室、障がい学生支援においては専門スタッフを配置し、相談業務（学校医、カウンセラーとの関係含）や学内外との関係等行いました。障がい学生支援については、保健室を中心とした体制づくりを構築しました。
- ・各種トラブル防止・予防教育支援として、新入生には「学生生活のてびき」や安全に関するパンフレット等を配布し、適宜、メール等で注意喚起を行いました。

<地域研究所>

- ・公開講座を概ね計画通り開催することができました。（土曜教養講座6回、地域研究公開講座10回、まーいまーい Naha 連携講座6回）。新規で始めた地域研究公開講座は、沖縄大学が発信すべき優先度の高い情報として全学研究プロジェクトと地域研究所共同研究班の活動紹介をオンラインで配信しました。多くの受講者感想が寄せられ、研究活動へのフィードバックとなりました。
- ・那覇市との包括連携協力協定に基づき「子どもの貧困ソーシャルワーク研修」及びまーいまーい NAHA との連携講座を開講したほか、新たに那覇市議会と包括連携協力協定を結び、学生と那覇市議有志が国際コミュニケーション学科の授業（1コマ分）で「那覇市の未来共創ワールド・カフェ」を実施しました。

重点課題2. 沖大の教育・研究 ～地球環境・地域環境に貢献する教育・研究～

<経法商学部経法商学科>

- ・ゼミナール大会を対面で開催しました。
- ・入学前課題については、入学前オリエンテーションで方法等の解説し、課題に取り組んでもらいました。さらに、ポータルサイトも作成し、欠席した学生でも入学前課題に取り組めるような環境を整備しました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・天野先生の引率のもと、ベトナムへ5名の学生が異文化を体験するスタディツアーを実施しました。異文化交流のみならず、沖縄についてのプレゼンテーション等を行うこともできました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・国家試験激励会を対面実施し、先輩から後輩への勉強方法のアドバイス、先輩への勉強方法の質問の機会をつくりました。外部講師（社会福祉士会と連携）による国家試験対策は、難問科目について全4回実施しました。
- ・集中して受験勉強できる環境を確保するために新型コロナ・ウイルス感染対策をしながら、通年で勉強できる教室を確保しました。平日は夕方以降、土日、祝祭日、長期休暇中も勉強できる環境を確保し、グループ学習や個人での学習に利用する学生がでてよい雰囲気が出てきました。

<人文学部福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻>

- ・カリキュラムアセスメントに用いてきたDP調査項目の検討を行いました。「福祉の学び」について広く検討を行い、項目を一部改変しました。

<人文学部こども文化学科>

- ・教員採用試験対策については、学科と教職支援センターとが協働しつつ、着実な実績を積み重ねることができました。
- ・卒業論文・卒業研究を通して、全員がこども文化学科での学習成果をそれぞれの形でまとめることができました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・基礎学力測定および沖大ドリルを実施し、その結果について教員間で共有しました。
- ・「教育の質の向上」について各教員が取り組みました。授業改善アンケートについては回答率を上げるための呼びかけを行いました。
- ・教員による補講および外部業者を活用して管理栄養士国家試験対策を行いました。

<大学院>

- ・年2回(6月・10月)の中間発表会と最終発表会を開催し、研究計画の検討と進捗管理を促しました。
- ・院生が首里城公園友の会主催の史跡巡見にボランティアとして参加し、地域との交流を図りました。また、学内広報紙において、院生が那覇市内の史跡紹介の案内役を務めました。

<教務課>

- ・各学科長・部会長がシラバスチェックを実施し、難易度の確認を重点的に行いました。
- ・全学生対象に「学修行動/学習成果に関するアンケート」を行いました。「学習行動」と「学修成果」に関する項目に分けて調査を実施しました。

<国際交流室>

- ・国際コミュニケーション学科、渡邊教授の紹介で、台湾の輔仁大学と新たに協定を締結することができました。また、海外セミナー（英語圏）の派遣先として、オーストラリアの語学学校、Impact への派遣を学内決定しました。
- ・安座間サンサンビーチでビーチパーティーを実施し、留学生8名、日本人学生4名が参加して交流しました。
- ・ベトナム語担当教員のアンニェン先生とベトナム市師範大学から留学生2名を中心に「ベトナム旧正月を体験しよう」イベントを開催し、教職員及び日本人学生も多数参加しました。

<地域研究所>

- ・全学研究プロジェクトで取り組まれてきた子どもの貧困問題については、対象をSDGsに広げ、沖縄大学研究プロジェクト推進委員会で3件を採択し、研究プロジェクトが実施されました。また、すべての全学研究プロジェクトと地域研究所の共同研究の活動過程を紹介する「地域研究公開講座」を実施しました。

<マルチメディア教育研究センター>

- ・学生に所有端末の有無や購入予定時期を尋ねるアンケート調査を実施し、管理栄養学科では、24年度新入生からノートPC必携化の流れを作ることができました。
- ・教務課と合同で、講義収録システムの教員向け説明会を開催しました。

<教職支援センター>

- ・学生が勉強する習慣を身につけてきていることで教員採用試験の1次試験を通過する人数も安定してきました。昨年度まで試験対策を担当していた教員が退職し、引き継ぎが心配されましたが、後任の担当教員への引継ぎもスムーズにいき過去最高の現役合格者数を輩出することができました。

重点課題3. 沖大の学生像 ～共創力を育む大学教育への変革～

<経法商学部経法商学科>

- ・学生の多様なチャレンジを促進するため、琉球弧研究支援等の機会や成果の情報共有を行いました。
- ・多様なインターンシップの機会や成果の情報について、キャリア関連科目等を通じて実施しました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・海外に留学中のゼミ生との交流を遠隔にて実施しました。

<人文学部福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻>

- ・コロナ禍による制限が緩和され、徐々に地域活動を再開しました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・夏休みに体験的学習の機会として、福祉関連の施設にボランティアに行く機会を設けました。ソーシャルワーク演習の講義の中で、自己理解、他者理解を深め、コミュニケーションスキルの技術を学び向上を図りました。
- ・福祉施設や団体等でのボランティアに学生を派遣しました。ボランティア体験終了後も継続してボランティアに取り組む学生も出てきました。
- ・「地域福祉と包括支援体制」の講義の中で学生出身地域別グループ分け、グループ演習（地域の課題及び解決策）を行い、自分が住んでいる地域課題及び解決策について発表を行いました。

<人文学部こども文化学科>

- ・「学校ごっこ（実施1年）（運営2年宮島ゼミ）」「沖大附属小中学校（実施2、3年）（運営同実行委員会）」については、例年通り学生が積極的に取り組み、その成果の報告書にまとめました。
- ・こども文化学会をネット配信と対面参加のハイブリッドで開催しました。遠隔授業に取り組む小学校現場から、卒業生2名を招いて講演いただき、講演内容を、学科紀要に掲載することもできました。

卒業生の活躍も嬉しかったし、制限が多い中での学校の工夫も学ぶことができた。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・講義や実習において、地域の栄養・食に関する課題を見つけ、改善策を提供できる人材の育成に取り組みました。こども食堂やフードロス対策をテーマに卒業研究に取り組んだ学生もいました。

<大学院>

- ・論文指導教員が中心となり、院生の調査研究支援を行いました。

- ・院生が調査研究に利用できる予算を増額しました。

<学生支援課>

- ・サークル・クラブ支援や強化競技部への強化支援し、チャレンジ沖大生では1件を採用して支援を行いました。

<図書館>

- ・学生がイメージしやすいように、「ライティングセンター」から「レポート相談室」と呼称を変え、学生に案内しました。
- ・図書館ツアーの開催状況を図書館運営委員会にて報告し、さらなる図書館ツアーの申し込みへの呼びかけを行いました。

<地域研究所>

- ・学生のフィールドワークを活発化させるために、琉球弧研究プロジェクト11件の費用補助を行いました。アネックス共創館においてキックオフミーティング及び成果報告会を開催しました。

重点課題4. 沖大の新たな共創への挑戦

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・県内3大学を含む全国40の大学・高校・専門学校に対し、独自開発した発音練習ソフト「ST Lab」のサービスの提供を継続しました。
- ・4年次の教職課程履修生が3年次の模擬授業を観察し、アドバイスをを行いました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・福祉文化学会の活動として、問題発見演習のデイキャンプや新入生オリエンテーション、新入生歓迎スポーツ大会、ビーチクリーンなど実施しました。コロナ禍前の福祉文化学会の活発な活動が再開しました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・那覇市保健所管理栄養士およびヘルスマイトと連携し、県産野菜を使った料理教室を開催しました。
- ・日本栄養士会および沖縄県栄養士会、沖縄県医師会の会員として各教員が活動しました。
- ・他大学との研究連携や県内食品企業との連携したレシピ開発など、他大学や企業との連携に取り組みました。

<経営企画室>

- ・2022年度外部評価委員会における質問や意見について、執行部による対応策を検討・記入し、各学科・部署等においては、これらを第六次中期計画の検討材料とするよう依頼した。
- ・地域で活躍する社会人を講師とした学生向けの講座（OKIDAI 職人倶楽部）を3回開催しました。

<学生支援課>

- ・沖大祭を対面で開催し、地域参加を促すようなプログラムを盛り込みました。また、体育会を中心に大学周辺地域の自治会との関係を意識した取り組みが実現できました。

<地域研究所>

- ・全学研究プロジェクトの「観光フットパス」及び「沖大ピーパーズ（仮称）」に学生も関わ

る形で進めることができました。研究活動と連動しながら、地域共創の実践活動を推進しました。

基本課題A「志願者」志願者を十分に獲得し、APに基づく選抜を実現

入試広報室と各学科が連携してオープンキャンパスを実施するなど、本学の特色を伝える広報活動を展開しました。

(入試広報の取組み)

- ・有名声優による新バージョンのCM制作放映及びSNSを通じた情報発信を展開しました。
- ・九州地区から関西、東海、関東などに絞り進学ガイダンス等に参加しました。県外受験生と直接接する機会を増やすことで県外での知名度向上と受験促進を図りました。
- ・八重山地区での出張オープンキャンパスを昨年に引き続き2年連続で実施しました。概ね好評で入学につなげることができました。
- ・志願者管理システムを導入し多角的に分析および在学生のGPA等追跡調査を実施し、より効果的な学生募集活動を展開しました。

基本課題B「中退者」中退者を出さない教育と学生支援

<経法商学部 経法商学科>

- ・ゼミでの出席状況が芳しくない学生などをゼミ担当教員に呼び掛けてリスト化し、学習支援室につなげました。
- ・新入生むけの履修指導を実施し、問題発見演習Iでも登録漏れなどがないか、各担当教員が確認を行いました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・初年次の問題発見演習Iのペチャクチャ大会の実施など、学年全体で取り組みました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・1年次を対象に前期の早いうちにデイキャンプを開催しました。その他、新入生歓迎スポーツ大会を活用したゼミ活動や各ゼミ内でのイベントを行うことで、学生間の交流の機会を増やし、居場所づくりを行いました。月に1度の担当者会議を継続し、学生状況を共有し、支援が必要と思われる学生を学生支援室や学修支援につなげました。

<人文学部福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻>

- ・中退者減に向けて、専攻会議において各年次の学生情報の共有を行い、ゼミ単位での学生面談等、日々の教育活動を通して相談しやすい関係・風土づくりを意識的に取り組みました。
- ・2023年度「問題発見演習」(社福専攻と合同)において、新入生や上級生との交流を目的としたデイキャンプを実施しました。
- ・入学前オリエンテーションと同日に「学び体験(パラスポーツ体験)」を実施しました。大学の講義を通して大学での学びを体験すること、合格者同士のコミュニケーションを促進することを目的として行いました。在学生(パラスポーツ中級指導員)が企画運営を担いました。

<人文学部 こども文化学科>

- ・定例の学科会議(通算13回実施)では、学年ごと、ゼミごとに、気になる学生の情報を共

有しました。

- ・学業面・人間関係面でも課題をも抱えがちな編入学性に対して、履修指導及び人間関係形成において丁寧な指導を行うことができました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・気になる学生についての共有は学科会議で毎回行い、履修相談室や学生支援課と連携を図りました。

<大学院 現代沖縄研究科>

- ・大学院での研究活動に見合う学力を有しているか、外国籍の受験者には大学院に見合う語学力を有しているかも含め、入学試験の面接や記述試験等の審査を厳格に行いました。
- ・面接では経済基盤、生活基盤の展望などについてもお伺いし、学業を継続できる条件を備えているか確認を行いました。進学理由も丁寧にお伺いし、入学後のミスマッチを避けられるよう努めました。
- ・学生支援課や教務課などと連携・情報共有を継続しながら、大学院生と指導教員との関係性におけるハラスメント防止の徹底を図りました。
- ・学部で生じたハラスメント問題の情報を（大学院運営に必要な範囲で）研究科長と共用する仕組みを法務監査室と整備しました。

<経理課>

- ・学費の支払状況は、納付期限到来時に、未納者の支払い状況を学生支援課の担当者と、日に1~2回の頻度を取り決めて共有を行ったことで、年度を跨ぐ未納を防ぐことができ、実効性のある取り組みとなりました。

<教務課>

- ・各学科及び学生生活支援室との密な連携により、低単位取得学生数減少につながりました。

<学生支援課>

- ・JASSO奨学金と修学支援制度の担当者を2名配置して業務を遂行にあたりました。学内奨学金の最終的な見直し（3年目）を規程改正含めて行いました。
- ・保護者懇談会は各地区とも対面で実施し、参加者を例年並みに戻すことができました。また、久米島・宮古・八重山の離島の3カ所では、懇親会を行い、教職員・保護者・後援会・同窓会との懇親を深めました。

基本課題C「社会接続」社会と納得できるつながりを創り卒業

<経法商学部 経法商学科>

- ・キャリアデザイン入門などの科目を通して働くことについて考えてもらう機会を提供しました。
- ・公務員対策講座について、オンライン講義も受講できる体制で学習をサポートしました。

<人文学部国際コミュニケーション学科>

- ・海外へのゼミ旅行およびスタディツアーの実施によって、学生の異文化に対する学びの場を広げました。

<人文学部福祉文化学科 社会福祉専攻>

- ・国家試験に合格した卒業生により受験生への受験勉強方法の伝授や情報提供などの励む交

流を行いました。受験生同士で常につながりをもって互いに教え合う体制をつくりました。

<人文学部福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻>

- ・就職先データ及びプロスポーツクラブへのインターン参加事例を整理しました。

<人文学部こども文化学科>

- ・「教員養成の沖大」ブランドの確立に向け、教員採用試験対策について、一次対策は年間を通じて毎週1回、二次対策は直前1か月前以降、過卒者も対象に毎日実施しました。
- ・学科に集まる卒業生教員の情報を整理、共有しました。教育現場で生じるさまざまな実践的な課題や成果を、集約し整理し、その取り組みから見えたものは学科紀要でも発表されました。

<健康栄養学部管理栄養学科>

- ・南城市管理栄養士を迎えての地域公衆衛生学講話の開催および卒業生（1期生2名）による職場紹介（管理栄養士・栄養士の仕事について）を実施しました。具体的なライフデザインについて考える機会を持ち、就業観や社会接続について、早い段階から意識し、目標をもった学生生活を送れるよう取り組みました。

<大学院 現代沖縄研究科>

- ・院生や修了生のニーズについて随時聞き取り調査を行いました。
- ・在学生と修了生が投稿可能な大学院紀要の発刊などを他大学などのケースを見ながら、地域研究所とも議論し実現可能性を模索しました。

<就職支援課>

- ・沖縄県中小企業家同友会との連携（交流会、合同企業説明会など実施）、企業訪問、企業人事担当者と学生の交流会などを実施しました。
- ・低年次向けの就職支援、キャリア支援イベントを企画し、就業体験希望者が増加しました。

基本課題D「大学運営・経営基盤」激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化

【大学運営・経営基盤】

<総務課>

- ・第五次中期計画の振り返りをテーマに教職合同研修会を開催しました。教職員94名が参加しました。
- ・裁量労働制の改正により、協定書・協定届の変更を行い、労基署への提出を行いました。
- ・ハラスメントに関するアンケートを実施しました。レポートをもとに2024年度の研修等に活かしていく予定です。

<経理課>

- ・課長会と事務局会議で、予算執行状況の報告を行いました。経理課以外の職員についても、資金の流れに触れる機会になりました。
- ・教員の研究費等の振り込み対応について、研究費担当部署の意向を確認して検討を進め、教員の研究費の現金支給を改め、給与口座へ振り込みを開始しました。
- ・資金運用会議における四半期報告や決算予測を行うことで、年度末に集中していた決算業務を前もって行うようになり、早期に決算業務を行うことができるようになりました。そ

れに伴い、会計士による監査も前倒して着手できるようになりました。

<経営企画室>

- ・教職合同研修会を活用し、部署ごとの五次中計の振り返りと六次中計に向けた意見交換を行うことができました。研修会実施までに執行部と経営企画室で開催方法等をしっかり議論して進めたことで、教職員全員が参加して、今後の大学の運営を考える機会となりました。
- ・寄附の活性化のため、返礼品（5種）を用意してウェブサイトや広報誌等で広報を行い、大学関係者以外の方からも寄附の申し込みをいただきました。

【その他取り組み】

<施設課>

- ・施設劣化調査計画に基づき、3号館、アネックス共創館及びアネックス共創館敷地の劣化調査と安全点検を実施し、緊急性の高かった指摘箇所について修繕を行いました。

<経営企画室>

- ・内部質保証推進組織については、教学 IR 委員会の位置付けと実質化という面で教務課と意見交換を行い、委員会規程の改正等、改善に向けた対応を行いました。今後、入試広報室、教務課、学生支援課、就職支援課、経営企画室が連携し、データの収集・分析を行う体制が整いつつあります。

2. 地域貢献事業

(1) 地域研究

沖縄大学では、研究者個人の研究のほか、全学的な全学研究プロジェクトや地域研究所の共同研究班活動に取り組んでいます。

地域研究所は、地域の課題に対し学内所員が学際的研究に取り組むことを本務に1988年に設立されました。現場に根ざした学外の研究者に地域研究所の活動に参加していただく委嘱研究員制度を設け、2023年度は74人の方々に特別研究員を担っていただきました。

① 全学研究プロジェクト

地域共創・未来共創の大学理念を具体化する全学的な地域研究を推進し、大学の特色化を強め、沖縄大学が地域と共にある大学として発展する礎とすることを目的に実施しています。

<2023年度の取り組み>

年数	研究名	概要	構成員(★代表)	
			学内教員	その他
2	地域共創形成プロジェクト —那覇市真和志南地区との「観光フットパス」共同作成を通じて—	本学周辺地域の歴史、文化等を堪能できる観光フットパスを、地域住民、本学学生・教職員など背景の異なる者達が共同作成することを通じて、地域の持つ魅力を再発見、発信しながら交流できる仕組みを構築する。	★伊藤丈志 嘉数健悟 前田舟子	那覇市人材育成支援センター まーいまーい Naha
2	島コショウの6次産業化による地域づくり —香り高き「沖大ピィパーズ(仮称)」の商品開発を起点とするコレクティブ・インパクトを目指して—	香り高いピィパーズの製法を研究し標準化に取り組むとともに、地域で多様な人々が関わりうる生産から販売までのワーキングネットを構築することにより、地域共創型6次産業化商品という新たな価値を社会に提示する。	★宮良恵美 酒井由希子 盛口 満	新垣慶子 外間杏花 山門健一 後藤哲志 沖縄県ピィパーズ生産推進協議会
1	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	2022年2月末のウクライナ戦争から始まった国際秩序の揺らぎもあり、沖縄大学が「平和と反戦」を強く発信していくような流れを作っていく、〈学び舎〉として平和教育を実践していくことを目的としている。沖縄大学の有志が集まって月一回のペースで地域市民の方々にも門戸を広げ、「戦争と平和」「人類と人権」「非暴力と自由」「差別と不寛容」「本当の意味でのSDGsなどについてのフォーラムやワークショップを企画運営して、沖縄大学から「平和と反戦」の実践活動を発信していく。	★西 章 山代 寛 吉川麻衣子 須藤義人	浜川智久仁 兼島 徹 具志堅隆松

② 地域研究所共同研究

琉球及びアジア地域の社会・文化・自然環境等に関する調査・研究を行うことにより、優れた研究成果を創出し、地域社会に役立てられることを目的に実施しています。

<2023 年度の取り組み>

年数	研究名	概要	共同研究者(★代表)	
			所員	特別研究員
3	こどもと自然 離島地域における教育環境と大学の関わり	地理的不利な離島においては、教育の手段も制限され、学校教育以外の出会いの場(教的な場)も少ない。研究班では大学による出前授業を実施することにより、地理的に不利な教育環境をどの様に補完できるかを考える。また、こうした取り組みを持続的に実施するための課題と解決策を探る。	★盛口 満 喜屋武政勝 上原周子	後藤亜樹
2	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	沖縄本島および離島をベースにしながら、様々な災害概念を対象として幅広く地域研究を行い、「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる文理融合の学際的・総合的研究を進めていく。	★糸数 哲 國仲小織	春田吉備彦 河合 墨 稲垣 暁
2	日本の周縁地域における「まち・ひと・しごと創生」と観光振興	多様なアクターの参加によって実施されている日本の周縁地域における地域活性化の実相を「まち・ひと・しごと創生」と関連付けられた施策—特に観光振興—の分析を通して多面的に明らかにすることを目的としている。	★島田尚徳 豊川明佳	
1	沖縄の家族観・死生観にみる臓器提供に関する法と政策 —より多くの命を救うために—	我が国で独自性を有する沖縄の家族観・死生観が、臓器提供の際に与える影響を調査した上で、ドナー不足により救えない命があるという課題を、沖縄の地域性からいかに解決していくか、法的・政策的観点から考察する。	★富山侑美 島田尚徳	
1	戦後沖縄の相談員をめぐる仕事と労働に関する基礎的研究	戦後沖縄の相談員をめぐる仕事や労働に関わる諸問題にジェンダーと人的資源管理の視点から取り組むことで、学際・実践的労働問題解決ネットワークを構築、沖縄の相談員の仕事・労働に関わる課題や可能性を開示する。	★成定洋子 島袋隆志	仲村宮子 棚原美菜子
1	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法 —戦後史研究の実践から問い直す—	沖縄戦後史研究では、オーラルヒストリーの方法と実践に対する学術的検証は未だ十分とはいえない。本研究では、オーラルヒストリーの実践を通じて研究史を再検証しつつ、地域史の新たな方法を探究する。	★若林千代 我部 聖	謝花直美 親川裕子 居原田 遙

1	食品ロス削減食育研究 —食べる力、生きる力、取 り組む力—	従来の食育の概念「食べる力、生きる力」に加え、食品ロス削減に「取り組む力」を養えるような効果的な食育方法を開発することを目的とし聞き取り調査等を行う。開発したツールを用い食育を行うと共に食品ロスに対する意識調査や健康に関する身体的調査あるいは健康意識調査を計画する。	★下地みさ子 又吉哲太郎 國本あゆみ	叶内宏明 逸見幾代
---	-------------------------------------	---	--------------------------	--------------

(2) 地域研究活動の経過・成果

地域研究活動の経過や成果を発表し、地域にも研究活動自体にもフィードバックが得られるような取り組みを目指しています。

① 地域研究公開講座

地域共創・未来共創を謳う本学の特色化に取り組む地域研究（沖縄大学全学研究プロジェクト）や地域の課題に対し役に立とうとする地域研究（地域研究所共同研究）を学内外に紹介しています。沖縄大学憲章にある「地球市民・地域市民の共育」「地球環境・地域環境に貢献する教育研究」「共創力を育む大学教育への変革」に資する地域貢献活動となるよう、本学の地域研究活動をより地域に開かれたものとしていくことを目的に実施しています。

<2023 年度の取り組み>

No.	開催日	研究代表者 (所属学科)	研究名	参加者
1	6/21(水) 16:30～ 17:30	伊藤丈志 (国際コミュニケーション学科)	地域共創形成プロジェクト —那覇市真和志南地区との「観光フットパス」 共同作成を通じて—	22 名
2	9/19(火) 16:00～ 17:30	糸数 哲 (経法商学科)	沖縄県を中心にした「自然災害」と地理学・栄養学・労働法・基地問題・社会福祉の交錯にかかわる総合的研究	31 名
3	10/11(水) 16:00～ 17:30	西 章 (福祉文化学科)	沖縄大学「いのちの未来の平和学」プロジェクト	37 名
4	10/31(火) 16:30～ 17:30	島田尚徳 (経法商学科)	日本の周縁地域における「まち ひと しごと創生」と 観光振興	14 名
5	11/15(水) 19:00～20: 00	盛口 満 (こども文化学科)	こどもと自然 —離島地域における教育環境と大学の関わり—	28 名
6	12/14(木) 17:00～ 18:00	富山侑美 (経法商学科)	沖縄の家族観・死生観にみる臓器提供に関する法と政策 —より多くの命を救うために—	22 名
7	1/24(水) 17:30～ 19:00	宮良恵美 (管理栄養学科)	島ゴショウの 6 次産業化による地域づくり —香り高き「沖大ビィパーズ(仮称)」の商品開発を 起点とするコレクティブ・インパクトを目指して—	30 名

8	1/31(水) 18:00～ 19:30	下地みさ子 (管理栄養学科)	食品ロス削減食育研究:食べる力、生きる力、取り組む力	16名
9	2/1(木) 15:00～ 16:00	若林 千代 (経法商学科)	沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法 —戦後史研究の実践から問い直す—	47名
10	2/27(火) 13:00～ 14:00	成定洋子 (経法商学科)	戦後沖縄の相談員をめぐる仕事と労働に関する基礎的 研究	30名

② 地域研究所紀要『地域研究』

地域研究所の所員及び特別研究員が地域研究活動の経過や成果を発表する紀要を発行しています。2023年度は、論文4編、研究ノート5報、実践研究報告1報、調査報告3報を掲載した第31号を発行しました。

(3) 地域共創

沖縄大学の理念「地域共創・未来共創の大学へ」に向けて、学部生・院生のフィールドワークや地域に開かれた土曜教養講座、自治体等との連携事業を推進しています。

① 琉球弧研究支援プロジェクト

「地域共創・未来共創」に取り組む学部生や院生を応援する試みとして、琉球弧をフィールドとした研究や実践活動を推進しています。教員のアドバイスと活動費の補助を行っています。

<2023年度の取り組み>

No.	学科	代表者	研究・実践テーマ	指導教員
1	経法商学科 (3年次)	仲間功也	琉球舞踊古典女踊における髪飾りの研究	島袋隆志
2	こども文化学科 (3年次)	城間 陸	石垣島の子どもたちへの環境教育実践	盛口 満
3	こども文化学科 (3年次)	真境名 華	学習前の活動と記憶力向上との繋がりについて	松尾理沙
4	国際コミュニケーション 学科 (3年次)	新垣美琉	沖縄の伝統陶芸や文化遺跡に潜む 琉球と朝鮮の文化的交流について	洪 玗伸
5	国際コミュニケーション 学科 (3年次)	金城美紀	沖縄戦をめぐる海外出身者の慰霊形態分析 —沖縄県内、離島の慰霊碑を中心に—	
6	管理栄養学科 (4年次)	大嶺楓葉	島野菜と生活習慣病の関連性について	荒木裕子
7	管理栄養学科 (4年次)	島袋涼佳	若い世代への琉球料理の継承について	

8	管理栄養学科 (4年次)	末吉 萌	地場野菜を用いたスイーツの考案および 野菜の情報提供が大学生の食意識に与える影響
9	管理栄養学科 (4年次)	大庭利々香	琉球料理の伝承方法の比較
10	管理栄養学科 (4年次)	仲宗根和奏	大学生における伝統的農産物の認知および 食体験について
11	管理栄養学科 (4年次)	高良みく	小学6年生における琉球料理および島野菜の認知度と 家庭での食経験との関連性 —沖縄県の地域性—

② 土曜教養講座

1976年に開講した土曜教養講座は2023年度で48年目を迎えました。

本講座は、主に学内教員・職員からの発案で実施されるもので、沖縄が負った様々な課題の中から時宜に合うテーマで講演会やシンポジウムを開催し、また沖縄大学の地域研究の成果を市民向けに広く発表する場とさせていただきます。

<2023年度の取り組み>

	開催日時	内容	参加者
1	6月10日 (土) 14:00-16:00	【対面・オンライン(ハイブリッド)】第598回土曜教養講座 「非戦への誓い—沖縄戦の『記憶の継承』による共創と教育—」 【司会】 我部 聖(沖縄大学経法商学部経法商学科 准教授) 【講師】 謝花直美(ジャーナリスト/沖縄戦・戦後史研究者) 牛島貞満(沖縄観光コンベンションビューロー沖縄修学旅行アドバイザー/沖縄大学地域研究所特別研究員) 藤原 健(琉球新報客員編集委員/毎日新聞客員編集委員/沖縄大学地域研究所特別研究員)	74名
2	7月22日 (土) 14:00-16:00	【オンライン】第599回土曜教養講座 「琉球弧の軍事要塞化を考える—地元の声よ届け!—」 【司会】 高良沙哉(沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授) 【講師】 狩野史江(与那国、イソバの会) 清水早子(『ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会』共同代表) 上原正光(基地いらないチーム石垣・代表)	74名
3	8月18日 (金) 13:30-16:15	【対面・オンライン(ハイブリッド)】第600回土曜教養講座 「協働による福祉とまちづくりのゆくえ—行政と市民団体の協働はどうあるべきか—」 【司会】 島村 聡(沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授) 【講師】 川北秀人(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表) 能島裕介(兵庫県尼崎市こども政策監)	100名

		<p>金城隆一(NPO 法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい代表理事)</p> <p>黒田 華(琉球新報社広告事業局ソリューションビジネスグループ)</p>	
4	<p>9月9日 (土) 13:00-17:30</p>	<p>【対面】第 601 回土曜教養講座 国際シンポジウム「沖縄から考える『慰安婦』問題—宮古島『慰安婦』のための碑 15 周年とアジア—」</p> <p>【司会】 [全体進行]宮城 公子(沖縄大学名誉教授) [第2部進行]川満 昭広(インパクト出版会代表)</p> <p>【通訳】 金美恵 キム ミへ(東京大学特任研究員) 李裕珍 イ ユジン(戦争と女性の人権博物館・日本連帯担当)</p> <p>【講師】 金昌祿 キム チャンロク(慶北大学教授) 藤目ゆき(大阪大学教授) 李娜榮 イ ナヨン(正義連 理事長/中央大学教授) 朴貞愛 パク チョンエ(東北亜歴史財団研究委員) 謝花直美(元沖縄タイムス記者) 洪 玗伸 ホン ユンシン(沖縄大学准教授) 高里鈴代(基地軍隊を許さない行動する女たちの会 共同代表) 宋連玉 ソン ヨンオク(青山学院大学名誉教授) 梁鉉娥 ヤン ヒョンア(ソウル大学教授) 上里清美(宮古島で「慰安婦」問題を考える会 共同代表) 山城紀子(フリージャーナリスト) 宮城晴美(沖縄女性史研究者)</p>	72 名
5	<p>17日(日) 13:30-16:30</p>	<p>【対面・オンライン(ハイブリッド)】第 602 回土曜教養講座 「沖縄の米軍 PFAS 汚染問題を日米市民社会に届けよう」</p> <p>【司会】 宮城 公子(沖縄大学名誉教授)</p> <p>【講師】 パット・エルダー(「ミリタリーポイズンズ」ディレクター) 桜井国俊(沖縄大学名誉教授、沖縄環境ネットワーク世話人) 照屋正史(宜野湾ちゅら水会メンバー、VFP-ROCK Associate Member)</p>	91 名
6	<p>11月11日 (土) 14:00-16:00</p>	<p>【対面】第 603 回土曜教養講座 「那覇市での県立夜間中学開設を考える—『こんばんはⅡ』上映会—」</p> <p>【司会】 見城 慶和(元東京・夜間中学教員)</p> <p>【講師】 盛口 満(沖縄大学人文学部こども文化学科 教授) 新崎康文(夜間中学卒業生) 山本結智(夜間中学校と教育を語る会事務局員) 関本保孝(元東京・夜間中学教員、基礎教育保障学会事務局次長)</p>	60 名

③ 那覇市との連携事業

- ・ 那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座

2020年に開館した那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha は、沖縄の観光振興などに携わる人材の育成や、市民の学習・交流活動を支援することを目的に活動しています。人材育成事業では、国際化などの社会情勢に柔軟に対応できる人材の育成を目的に各種講座を開講しており、その一環で本学との連携講座を実施しています。

<2023年度の取り組み>

	開催日時	内容	参加者
1	2023年 12月6日(水) 18:30-20:00	「異文化を学ぶ！知る！～文化の違いから生じる誤解を招かないために～オーストラリア編」 【講師】 渋谷 百代(沖縄大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 教授)	29名
2	2023年 12月13日 (水) 18:30-20:00	「異文化を学ぶ！知る！～文化の違いから生じる誤解を招かないために～台湾編」 【講師】 李 舒陵(沖縄大学 非常勤講師)	38名
3	2023年 12月19日 (火) 18:30-20:00	「異文化を学ぶ！知る！～文化の違いから生じる誤解を招かないために～ベトナム編」 【講師】 アン ニュン(沖縄大学 非常勤講師)	23名
4	2024年 3月5日(火) 18:30-20:00	「グローバル社会における国際コミュニケーション～『国際コミュニケーション』ってなんだろう？」 【講師】 伊藤 丈志(沖縄大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 准教授)	23名
5	2024年 3月12日(火) 18:30-20:00	「グローバル社会における国際コミュニケーション～語学力を活かした職業」 【講師】 伊藤 丈志(沖縄大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 准教授)	25名
6	2024年 3月19日(火) 18:30-20:00	「グローバル社会における国際コミュニケーション～留学ってしたほうがいいのか？」 【講師】 伊藤 丈志(沖縄大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 准教授)	17名

- ・ 那覇市議会との連携事業

2023年、那覇市議会と沖縄大学は、市民に開かれ地域の多様な主体と協働して未来の共創を目指すという共通理念をふまえ、包括的に連携協力を図る協定を結びました。

<2023年度の取り組み>

本協定に基づき、2023年12月25日(月)、「那覇市の未来共創ワールド・カフェ～学生&議員・教員～」を開催しました。国際コミュニケーション学科1年次ゼミの時間を使い、5つのテーマ(日本語支援、英語教育、国際文化交流、観光、児童福祉)のグループに分かれて、那覇市の抱える問題や改善案などを話し合いました。

④ 近隣自治体との連携事業

・ 子どもの貧困ソーシャルワーク研修事業

那覇市、豊見城市及び糸満市と沖縄大学が協力し、子どもの貧困対策に取り組む支援員や居場所職員等がその職能を習得する研修事業を行いました。

・ 南部広域市町村圏事務組合広域研修事業

沖縄県南部圏域における広域的な政策課題等に取り組む人材を育成する研修事業を行いました。

(4) 「出前講座・体験授業」の実施

沖縄大学では、地域貢献の一環として多様な学習機会の一助となるよう、小学校・中学校・高校への「出前講座・体験授業」の実施をしています。

「出前講座・出前授業」(小学生・中学生・高校生向け講座) 開催講座数：38 講座

	開催日	実施高校	講座名	担当講師
1	5月26日	具志川高校	Verbal and Nonverbal Communication: 見た目はそんなに大事?	末吉綾乃
2	6月9日	首里東高校	目標を達成するには、コツがある	石原端子
3	6月15日	那覇工業高校定時制	「平和」を考える	宮城能彦
4	6月16日	北谷高校	「平和」を考える	宮城能彦
5	6月21日	泊高校 夜間部	「平和」を考える	宮城能彦
6	6月30日	陽明高校	幸せってなんだ?	樋口耕太郎
7	7月6日	沖縄市立島袋小学校	知ってびっくりタバコの真実	山代寛
8	7月12日	北中城高校	18歳までに知っておきたい法学	高良沙哉
9	7月13日	西原高校	緊急避難で考える刑法と倫理	富山侑美
10	7月20日	首里東高校	Verbal and Nonverbal Communication: 見た目はそんなに大事?	末吉綾乃
11	7月25日	宜野座高校	何のために働くの?	宮城能彦
12	7月26日	宜野座高校	アンニョハセヨ?魔法のような韓国語学習法	洪玗伸
13	9月19日	泊高校 午前部	アンニョハセヨ?魔法のような韓国語学習法	洪玗伸
14	9月19日	沖縄水産高校	目標を達成するには、コツがある!	石原端子
15	9月27日	宮古島市立下地中学校	何のために働くの?	宮城能彦
16	9月29日	中部農林高校	障がい者スポーツの世界	中山健二郎
17	9月29日	沖縄水産高校	「働くこと」とは何か ーチーム・ワークを考えるー	島袋隆志
18	10月12日	つくば開成高校	何のために進学するのか	宮城能彦

19	10月20日	嘉手納高校	「性の多様性」ってなんだろう？	吉川麻衣子
20	10月24日	那覇工業高校	「日本的」な働き方・働かせ方って？	石川公彦
21	10月25日	豊見城高校	虐待問題について考える	宮元預羽
22	11月6日	前原高校	ストレスとの上手な付き合い方	名城健二
23	11月6日	中部農林高校	困っている人を支える専門職を知ろう	平野貴大
24	11月14日	うるま市立具志川小学校	沖縄の自然	盛口満
25	11月30日	前原高校	ハッキリンで自分の気持ちを伝えよう	松尾理沙
26	12月6日	宮古工業高校	アンニョハセヨ？ 魔法のような韓国語学習法	洪玠伸
27	12月6日	豊見城高校	幸せってなんだ？	樋口耕太郎
28	12月8日	糸満市立西崎小学校	生活リズム・睡眠・タバコとお酒の害について	山代寛
29	12月13日	北部農林高校 定時制	ストレスとの上手な付き合い方	名城健二
30	12月22日	久米島町立球美中学校	仲良しユガミンを見つけて上手にストマネ	松尾理沙
31	1月10日	沖縄水産高校	何のために働くの？	宮城能彦
32	1月31日	南部商業高校	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城健二
33	2月6日	八重山商工高校	仲良しユガミンを見つけて上手にストマネ	松尾理沙
34	2月6日	八重山商工高校	SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）を体験しよう	名城健二
35	2月7日	八重山商工高校	「働くこと」とは何か ーチーム・ワークを考えるー	島袋隆志
36	2月7日	八重山商工高校	楽しく学ぶための技術入門	宮城能彦
37	2月13日	中部農林高校	目標を達成するには、コツがある！ある！	石原端子
38	3月18日	沖縄水産高校	ヤングケアラーを知ろう	名城健二

(5) 地域住民への図書の貸し出し

地域住民が利用する公共図書館に目的の資料がなく、その資料が沖縄大学図書館にある場合、公共図書館を通じて地域住民への資料の貸し出しを行っています。

2023年実績

	依頼日	依頼館
1	4月19日	那覇市立中央図書館
2	5月12日	那覇市立中央図書館
3	5月25日	沖縄県立図書館
4	7月14日	沖縄県立図書館
5	7月25日	沖縄県立図書館

6	10月4日	護佐丸歴史資料図書館
7	10月25日	宮古島市立図書館
8	12月19日	石垣市立図書館

(6) 学外者の図書館利用

2023年度はコロナ禍も過ぎ、落ち着きを取り戻しつつある状況を鑑み、コロナ以前には実施していた学外者の図書館利用を再開しました。年間を通じて159名の利用がありました。

(7) 講師の派遣

沖縄大学では、教員を自治体等へ委嘱委員、講師として派遣しています。政策形成への寄与、知の還元等により地域社会への貢献を行っています。

2023年度 学外委員・講師等の派遣数

学科	教員数	派遣教員数	単発派遣	中・長期派遣	合計
経法商学科	23	11	2	24	26
国際コミュニケーション学科	11	5	2	5	7
福祉文化学科	16	7	29	15	44
こども文化学科	9	4	11	4	15
管理栄養学科(助手)	11(5)	11	7	14	21
その他(職員等)		6	4	5	9
合計	75	44	55	67	122

※単発派遣・・・1回のみ講師派遣

※中・長期派遣・・・1年未満～1年以上の派遣

3. 学生活動の実績

(1) クラブ活動・ゼミ活動等の実績

競技名・団体名	日付	大会
野球部	4月8日～5月3日	第109回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会沖縄地区予選 準優勝 <表彰選手>[敢闘賞] 神里航平、[打撃賞]1位 金城啓太、2位 神里志温、[打点賞]神里志温、[ベストナイン賞]投手 仲宗根匠、三塁手 當山優日、外野手 神里志温、金城啓太
	6月17日～24日	第25回沖縄県大学野球フレッシュリーグ 準優勝
	8月26日～9月12日	第110回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会 沖縄地区予選 優勝 <表彰選手>[殊勲賞] 神里航平、[打撃賞]2位 角田健慎、[新人賞]玉城龍希、[ベストナイン賞]一塁手 角田健慎
	10月5日～11日	第110回九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会 決勝トーナメント 準優勝 <表彰選手>[敢闘賞] 平典士
	10月19日～22日	第30回九州大学野球選手権大会 出場
空手道部	4月29日	空手道部】第47回沖縄県学生空手道選手権大会 男子個人形 優勝(川村真太郎) 3位(平安名翔太) 5位(眞喜志康ノ介)、女子個人形 3位(仲本青空) 5位(本村優利花) 出場(大城理沙)、男子個人組手 3位(嘉数明斗) 出場(伊保克矩、松田五吹)、女子個人組手 出場(本村優利花)
	5月14日	空手道部】第64回全九州学生空手道選手権大会 男子個人形 出場(川村真太郎、平安名翔太、眞喜志康ノ介)、女子個人形 出場(下門未幸、仲本青空、本村優利花、男子個人組手(65kg～75kg) 出場(嘉数明斗、松田五吹)、男子個人組手(65kg未満) 出場(伊保克矩)
	5月21日	空手道部】第60回西日本大学団体戦団体組手 出場
	6月18日	空手道部】第92回沖縄県空手道選手権大会兼国体予選会 男子個人形 3位(平安名翔太) 5位(眞喜志康ノ介)、女子個人形 5位(大城理沙、本村優利花) 出場(下門未幸)、男子個人組手(中量級) 準優勝(嘉数明斗) 出場(松田五吹)、男子個人組手(軽量級) 出場(伊保克矩)、女子個人組手 出場(本村優利花)
	7月2日	空手道部】第67回全日本学生個人 出場(伊保克矩、嘉数明斗、松田五吹)
	10月15日	空手道部】第72回全九州学生空手道選手権大会 男子団体形 3位(川村真太郎、平安名翔太、眞喜志康ノ介)、男子団体組手 出場(嘉数明斗、伊保克矩、松田五吹)
サッカー部	4月9日～30日	第46回九州大学サッカートーナメント(予選) 予選1位によりトーナメント本戦出場権獲得
	6月9日	第38回九州大学サッカーリーグ(2部:第2節) 前期リーグ 7位
	7月8日	第46回九州大学サッカートーナメント(本戦) 出場
	8月22日	第5回九州大学サッカー新人戦 出場
	9月9日～14日	OFA 第21回沖縄県学生サッカーリーグ 優勝
	9月30日	第48回九州大学サッカーリーグ(2部:第5節) 出場
	10月29日	第48回九州大学サッカーリーグ(2部:第8節) 出場
	11月5日	第48回九州大学サッカーリーグ(2部:第9節) 出場
	11月18日～19日	第48回九州大学サッカーリーグ(2部:第11節) 閉会式 2部9位 [優秀選手賞]益田玲音
12月16日	OFA 第23回沖縄県学生サッカー選手権大会 出場	
水球部	7月8日～9日	第99回日本学生選手権水泳競技大会水球競技 九州地区予選会 優勝 全国大会派遣決定

	9月1日～3日	第99回日本学生選手権水泳競技大会水球競技 出場
女子サッカー部	6月11日～7月23日	KBC学園杯争奪 OFA 沖縄県女子サッカーリーグ 2023 2部 1位
	8月11日～13日	沖電工杯 OFA 第56回沖縄県サッカー祭り D組・女子の部 3位
陸上競技部	4月29日～30日	第35回海邦国体記念競技会 男子100m 2位 赤嶺翔、4位 座間味凜玖、6位 古謝開仁、7位 長濱瑠希斗、男子300m 1位 赤嶺翔、6位 伊波慧哉、男子800m 4位 神谷秋寿、男子1500m 4位 仲程太陽、7位 神谷秋寿、男子4×100mR 1位 座間味凜玖、赤嶺翔、長濱瑠希斗、奥山和磨、男子4×400mR 1位 伊波慧哉、伊波諒哉、奥山和磨、赤嶺翔、男子走幅跳 1位 伊波楓、男子三段跳 5位 伊波楓、女子100m 8位 長嶺涼風、女子走高跳 4位 金城志桜里、女子棒高跳 1位 名嘉真メグ、女子走幅跳 1位 石原麻理奈、5位 大城咲羅
	5月5日～7日	第93回九州学生陸上競技対校選手権大会 男子100m 3位 赤嶺翔、8位 座間味凜玖、男子4×100mR 4位 座間味凜玖、赤嶺翔、長濱瑠希斗、奥山和磨、男子走幅跳 8位 伊波楓、女子走高跳 8位 金城志桜里、女子棒高跳 3位 名嘉真メグ、女子3000mSC 2位 平賀麗奈、女子総合得点 8位、女子フィールド得点 5位
	5月13日～14日	第74回沖縄陸上競技選手権大会 男子100m 5位 赤嶺翔、6位 長濱瑠希斗、7位 奥山和磨、男子200m 1位 赤嶺翔、2位 長濱瑠希斗、3位 奥山和磨、男子400m 3位 伊波諒哉、6位 伊波慧哉、男子4×100mR 1位 仲里一志、赤嶺翔、長濱瑠希斗、奥山和磨、男子4×400mR 1位 伊波慧哉、伊波諒哉、長濱瑠希斗、赤嶺翔、男子走幅跳 3位 伊波楓、男子三段跳 4位 伊波楓、女子4×100mR 4位 石原麻理奈、長嶺涼風、上地愛花、阿波根美笑、女子走高跳 6位 金城志桜里、女子棒高跳 1位 名嘉真メグ、女子走幅跳 2位 石原麻理奈、女子三段跳 3位 石原麻理奈、8位 古堅希楓
	6月16日～18日	秩父宮賜杯第76回西日本学生陸上競技対校選手権大会 女子3000mSC4位 平賀麗奈（日本インカレB標準記録突破）、女子棒高跳 PV20位 名嘉真メグ、女子走高跳 25位 金城志桜里、女子100mHeat4 6位 上地愛花、女子走幅跳 20位 石原麻理奈、男子100mHeat4 8位 座間味凜玖、Heat7 8位 赤嶺翔
	7月15日～16日	第78回国体最終選考会 男子100m 5位 座間味凜玖、男子300m 2位 伊波諒哉、3位 伊波慧哉、男子800m 6位 仲程太陽、男子3000mSC 1位 仲程太陽、男子走幅跳 4位 伊波楓、男子4×100mR 3位 儀保賀丸、伊波慧哉、伊波諒哉、橋口翔、女子100m 3位 長嶺涼風、6位 上地愛花、女子走高跳 3位 金城志桜里、女子棒高跳 1位 名嘉真メグ、女子走幅跳 1位 石原麻理奈、4位 古堅希楓
	8月18日～20日	第78回九州陸上競技選手権大会 男子4×100m 4位 座間味凜玖、長濱瑠希斗、伊波諒哉、赤嶺翔
	9月14日～17日	第92回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子3000mSC 出場 記録 11:16.57 平賀麗奈
	9月22日～24日	第51回九州学生陸上競技選手権大会 男子100m 7位 長濱瑠希斗、8位 座間味凜玖、男子200m 6位 赤嶺翔、女子4×100m 6位 石新麻理奈、長嶺涼風、上地愛花、阿波根美笑、女子走高跳 5位 金城志桜里
	10月14日～15日	第8回九州学生陸上競技新人選手権大会 男子100m 8位 長濱瑠希斗、男子4×100m 2位 座間味凜玖、赤嶺翔、長濱瑠希斗、古謝開仁、女子走高跳 4位 金城志桜里、女子走幅跳 3位 石新麻理奈
	男子バスケットボール部	4月23日～30日
5月6日～14日		第28回全九州大学春季バスケットボール選手権大会 出場

	5月14日～21日	2023年度 沖縄県社会人総合バスケットボール選手権大会 天皇杯一般カテゴリー予選 4位
	4日～11日	第73回西日本学生バスケットボール選手権大会 出場
	9月16日～11月5日	第30回全九州大学バスケットボールリーグ戦 <2部リーグ> 5位(2部残留)
	12月16日	第31回沖縄県大学バスケットボール選手権大会 優勝
女子バスケットボール部	9月16日～11月5日	第30回全九州大学バスケットボールリーグ戦 <3部リーグ Aパート> 6位
	12月16日	第31回沖縄県大学バスケットボール選手権大会 3位
女子バレーボール部	5月6日	令和5年度沖縄県大学バレーボール春季大会 準優勝
	5月26日～28日	令和5年度九州大学春季バレーボール女子チャレンジマッチ 長崎大会 優勝
	7月1日～2日	令和5年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 沖縄県ラウンド 出場
	10月8日	令和5年度沖縄県大学バレーボール秋季大会 優勝
軟式野球部	5月18日～6月10日	2023年度沖縄県秋季リーグ戦 優勝(第3回全日本大学軟式野球選抜大会 SUMMERCUP2023 出場決定) <最優秀選手>新垣敦生
	8月20日	2023 全国大学軟式野球選手権選抜大会 出場
	8月20日～25日	第3回全日本大学軟式野球選抜大会 SUMMER CUP 2023 出場
	11月19日～23日	第46回全国大学軟式野球選手権大会 全国ベスト8
バドミントンサークル	10月29日～11月5日	沖縄県学生連盟バドミントン大会 男子団体 出場、男子個人シングル 出場、男子個人ダブルス 出場、女子団体 優勝
吹奏楽部	12月10日	第48回沖縄県アンサンブルコンテスト 金賞
卓球部	4月9日	令和5年度おきなわサービサー杯春季一般卓球団体戦大会 参加
	7月2日	令和5年度オリオンビール杯夏季一般卓球団体戦 参加(予選リーグ2位:3部残留)
沖縄大学管理栄養学科 子ども食堂サポートチーム	4月21日	第7回食育活動ボランティア部門食育推進ボランティアの部 審査員特別賞授賞
	6月24日	第7回食育活動ボランティア部門食育推進ボランティアの部 審査員特別賞授賞式(富山)
チャレンジ沖大	11月～1月	学年を超えた支え合いの仕組みを創ろう!
末吉ゼミ	2月	那覇市観光協会との連携事業「那覇の魅力発信事業」 インバウンド向けのコンテンツ『Okinawa Accher Accher in NAHA』の制作提供

4. 学事報告

学事報告		
2023年		
4月	1日	沖縄大学広報 160号発行
	3日	2023年度沖縄大学・沖縄大学大学院入学式 ※午前・午後に分けて開催
	10日	「日本軍第32軍司令部豪」模型展（図書館）
	11日	前期講義開始
	12日	「新入生歓迎」展示（図書館）
	19日	沖縄大学研究プロジェクト推進委員会にて全学研究プロジェクト採択（3件）
	26日	地域研究所第一回総会
	28日	沖縄大学地域研究所紀要『地域研究』第30号発行
5月	15日	新入生歓迎スポーツ大会
	29日	那覇市議会と沖縄大学との包括連携協力に関する協定締結式
6月	10日	創立記念日
	10日	2023年度沖縄大学後援会総会
	10日	第598回土曜教養講座「非戦への誓い—沖縄戦の『記憶の継承』による共創と教育—」
	21日	地域研究公開講座①「地域共創形成プロジェクト—那覇市真和志南地区(国場・仲井真・上間)の「観光フットパス」に向けた取り組み—」（伊藤研究班）
7月	1日	リサイクル図書の譲渡（図書館）
	22日	第599回土曜教養講座「琉球弧の軍事要塞化を考える—地元の声よ届け！—」
8月	1日	沖縄大学広報 161号発行
	17日	教職員合同研修会
	18日	第600回土曜教養講座「協働による福祉とまちづくりのゆくえ—行政と市民団体の協働はどうあるべきか—」
	—	—
9月	1日	久米島地区保護者懇談会
	6日	宮古地区保護者懇談会
	7日	八重山地区保護者懇談会
	9日	第601回土曜教養講座「沖縄から考える『慰安婦』問題—宮古島『慰安婦』のための碑15周年とアジア—」
	12日	北部地区保護者懇談会
	15日	2023年度9月沖縄大学卒業式・沖縄大学大学院修了式
	16日	中南部地区保護者懇談会
	17日	第602回土曜教養講座「沖縄の米軍PFAS汚染問題を日米市民社会に届けよう」
	19日	地域研究公開講座②「沖縄の自然災害事例と防災・減災対策」（糸数研究班）
	25日	後期講義開始
	26日	教育実習報告会（中等）①
	27日	地域研究所第二回総会

10月	6日	教育実習報告会（中等）②
	11日	地域研究公開講座③「沖縄から考える『平和学』」（西研究班）
	17日	栄養教育実習報告会（栄養）①
	18日	「秋を楽しむ」特集コーナー設置（図書館）
	20日	教育実習報告会（初等）
	24日	栄養教育実習報告会（栄養）②
	26日	冠奨学金証書授与式
	28日 ～29日	第64回沖大祭「はいさい、かりゆし、沖大祭」
	31日	地域研究公開講座④「データで見る日本の周縁地域—沖縄と山陰を比較してみよう—」（島田研究班）
11月	11日	第603回土曜教養講座「那覇市での県立夜間中学開設を考える—『こんばんはⅡ』上映会—」
	12日	【共催公開講座】「メディアは全ての人権のため、隠された真実を暴け！～『新たな戦前』に直面する沖縄・琉球弧の島々の真実を！～」シリーズ vol1
	15日	地域研究公開講座⑤「子どもと自然—石垣島での研究・実践から—」（盛口研究班）
	17日	教員採用試験合格者体験報告会（初等・中等）
12月	2日	外国語チャンプルーフェスタ
	6日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「異文化を学ぶ①豪州的多文化社会の景色」
	8日	経法商学部ゼミナール大会
	9日	こども文化学会
	13日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「異文化を学ぶ②知っておくといい、台湾文化」
	14日	地域研究公開講座⑥「沖縄県における臓器提供の現状と課題」（富山研究班）
	14日	国際コミュニケーション学会
	19日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「異文化を学ぶ③ベトナムって遠い国？」
	23日	福祉文化学科社会福祉専攻卒業論文最終発表会
	25日	那覇市の未来共創ワールド・カフェ～学生&議員・教員～
2024年		
1月	1日	沖縄大学広報 162号発行
	20日	福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻卒業論文最終発表会
	24日	地域研究公開講座⑦「沖縄の伝統食材“ピィパーズ”の魅力と産業化に向けた取り組み」（宮良研究班）
	31日	地域研究公開講座⑧「食品ロスの現状と課題」（下地研究班）
2月	1日	地域研究公開講座⑨「沖縄における地域史とオーラルヒストリーの方法—戦後史研究の実践から問い直す—」（若林研究班）
	5日	国際コミュニケーション学科卒業論文最終発表会
	6日	こども文化学科卒業論文最終発表会
	9日	相談援助実習報告会
	11日	大学院学位論文等最終発表会

	15日	精神保健福祉援助演習・スクールソーシャルワーク実習報告会
	15日	沖縄大学地域研究所紀要『地域研究』第31号発行
	18日	【共催公開講座】「メディアは全ての人権のため、隠された真実を暴け！～辺野古新基地建設問題について～」シリーズ vol2
	21日	琉球弧研究支援プロジェクト成果報告会（11件）
	27日	地域研究公開講座⑩「日米結婚・離婚・子どものための国際相談報告会」（成定研究班）
3月	5日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「世界が広がる①『国際コミュニケーション』って何だろう」
	8日	2023年度沖縄大学卒業式・沖縄大学大学院修了式
	12日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「世界が広がる②語学力を活かした職業」
	12日	外部評価委員会
	19日	那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha・沖縄大学連携講座「世界が広がる③留学ってした方がいいの？」

Ⅲ事業の概要（データ）

1. 志願者数・合格者数・入学手続き者数

学部		※編入除く（人）		
学科	志願者数	合格者数	入学手続き者数	
経法商学科	630	366	272	
国際コミュニケーション学科	216	164	86	
福祉文化学科	327	200	152	
こども文化学科	157	97	52	
管理栄養学科	255	101	82	
	1585	928	644	

大学院 （人）

専攻	志願者数	合格者数	入学手続き者数	
地域経営専攻	3	1	0	
沖縄東アジア・地域研究専攻	1	0	0	
	4	1	0	

2. 入学金、授業料等の費用

学部 （円）

学 科	初年次				2年次 3年次	4年次	4年間 合計
	入学金	授業料	その他	合計			
経法商学科	125,000	720,000	118,300	963,300	835,000	855,000	3,488,300
国際コミュニケーション 学科	125,000	720,000	117,300	962,300	834,000	854,000	3,484,300
福祉文化学科	125,000	720,000	116,300	961,300	833,000	853,000	3,480,300
こども文化学科	125,000	720,000	117,300	962,300	834,000	854,000	3,484,300
管理栄養学科	125,000	720,000	316,660	1,161,660	1,032,000	1,052,000	4,277,660

大学院 （円）

専 攻	初年次納入金	2年次納入金	合計
地域経営専攻 沖縄・東アジア地域研究専攻	601,750	500,000	1,101,750

3. 学内奨学金支給実績

	奨学金種別	年額	2022 年度		2023 年度	
			支給人数 (人)	支給総額 (円)	支給人数 (人)	支給総額 (円)
1	冠奨学金	授業料半額相当額	20	7,200,000	20	7,200,000
2	学業奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	36	8,300,000	41	8,780,000
3	スポーツ奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	18	5,830,000	13	3,880,000
4	文化活動奨学金	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額 10 万円	0	0	0	0
5	私費外国人留 学生奨学金	授業料 60%相当額 授業料 50%相当額 授業料 40%相当額	5	864,000	3	432,000
6	後援会支援特別 奨学金	上限 20 万円	15	2,700,000	18	3,500,000
7	後援会支援修学 奨学金	上限 20 万円	32	6,400,000	18	3,600,000
8	学校推薦型選抜 特別奨学生	授業料半額相当額	145	52,200,000	143	51,480,000
9	スポーツ支援特 別奨学生	授業料相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額	29	8,820,000	30	9,360,000
10	児童福祉特別奨 学生	授業料相当額	4	2,880,000	4	2,880,000
11	共通テスト利用 選抜特別奨学生	授業料相当額 授業料 75%相当額 授業料半額相当額 授業料 25%相当額	53	13,500,000	50	11,160,000
12	外国人特別奨学 生	授業料半額相当額	9	3,240,000	9	3,240,000
13	二親等(兄弟等) 以内同時在学授 業料減額制度	2 人目の授業料の 25%相当額	46	6,685,750	41	5,785,800
14	教育ローン等利 子負担奨学金	上限 5 万円	4	76,444	3	120,876
15	社会人学生育児 支援奨学金	1 人目は 5 万円 2 人目からは 3 万円	2	100,000	2	130,000
16	大学院研究奨励 奨学金	授業料半額相当額	3	555,000	2	277,500
17	大学院現代沖縄 研究奨励金	50 万～100 万	0	0	0	0
		合計	421	119,351,194	397	111,826,176

4/18 確定

4. 単位互換協力校との派遣・受入状況、留学生の受入状況

単位互換協定校との学生の派遣・受入状況（2023年度）

※期間は1年間、【 】は半年間。（派）は派遣協定のみ

提携大学（国内）	2023年度		提携大学（海外）	2023年度	
	派遣	受入		派遣	受入
【北海道】旭川市立大学	1	0	【韓国】聖公会大学	0	0
【北海道】札幌大学	【1】	0	【韓国】延世大学韓国語学堂（派） ※2022年度より	2	
【茨城県】茨城キリスト教大学	0	0	【台湾】東海大学	3	0
【埼玉県】東京国際大学	0	0	【台湾】東呉大学	2	
【東京都】津田塾大学	0	0	【中国】西安交通大学（派）	1	
【東京都】法政大学	3 【1】	0	【中国】東華大学	0	0
【東京都】和光大学	0	0	【中国】上海体育学院	0	0
【神奈川県】関東学院大学	4	0	【アメリカ】エヴァレットコミュニティカレッジ（派）	0	
【岐阜県】岐阜協立大学 （旧：岐阜経済大学）	0	0	【オーストラリア】ボンド大学（派）	2	
【愛知県】愛知東邦大学	0	0	【オーストラリア】ニューイングランド大学（派）	0	
【京都府】京都精華大学	0	0	【ベトナム】ホーチン市師範大学	0	2
【兵庫県】神戸親和大学	【1】	0	【カナダ】ヨーク大学（派） ※2018年度より	1	
【広島県】広島修道大学	0	0	【カナダ】ジョージアンカレッジ（派）	0	
計	8 【3】	0	計	11	2

留学生の受入状況

国 別	学部生	院 生	研 究 生	国別計
中 国	9	0	0	9
台 湾	2	0	0	2
計	11	0	0	11

5. 主な資格取得状況

(人)

資格等種別	現役	既卒	合計
教員採用試験 合格者	24	30	54
社会福祉士国家試験 合格者	23	35	58
精神保健福祉士国家試験 合格者	9	1	10
管理栄養士国家試験 合格者	52	1	53
障害者スポーツ指導員（初級）資格 取得者	32	-	32
障害者スポーツ指導員（中級）資格 取得者	2	-	2
健康運動実践指導者試験受験資格 取得者	5	-	5
共通Ⅱ&ジュニアスポーツ指導員	2	-	2
レクリエーションインストラクター資格 取得者	14	-	14
スポーツ・レクリエーション指導者資格 取得者	23	-	23
Microsoft Office Specialist (MOS 試験) 合格者	41	-	41
ICTプロフィシエンシー検定試験 (P 検) 合格者 (※準2級・3級合格者の合計数)	23	-	23

※P 検は、準2級と3級合格者の合計数

※上記は事務局で把握している人数であり、実際的人数はこれより多い可能性があります。

6. 就職率

(%)

学部	学科・専攻	2022年度	2023年度	
経法商学部	経法商学科	96.9	97.3	
人文学部	国際コミュニケーション学科	97.6	97.9	
	福祉文化学科	社会福祉専攻	97.6	95.6
		健康スポーツ福祉専攻	100.0	100.0
	こども文化学科	100.0	100.0	
健康栄養学部	管理栄養学科	96.9	100.0	
計		97.7	98.2	

(※2024年5月1日現在)

7. 卒業者数・修了者数

(人)

学部	学科	卒業者・修了者数
経法商学部	経法商学科	202
人文学部	国際コミュニケーション学科	92
	福祉文化学科	110
	こども文化学科	50
健康栄養学部	管理栄養学科	77
計		531
大学院	現代沖縄研究科	1

※2023年9月卒業者数を含む

8. 卒業者数累計

卒業者数累計 (1960年度～2023年度)

26,510人

※大学院修了者は含んでいない

IV. 財務の概要

当期の予算の執行状況や、財務の概況を報告いたします。なお、金額は千円未満は切り捨てとしています。

なお、差異は学校法人会計基準に基づき、予算の額から決算の額を差し引いた金額になります。

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。

資金収支計算書は、本法人の1年間の活動状況を表したものです。この活動をお金の動きで表し、年度末における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)がいくらあるかを表したものです。

資金収入には、授業料等の学費や、入学検定料、寄付金、補助金等の収入や負債となる前受金などの収入のほかすべての資金収入を計上します。

資金支出には、教職員に支払う給与、消耗品や水道光熱費等の諸経費、土地、建物、図書、機器備品の購入費等のすべての支出を計上します。

また、資金収入調整勘定とは、収入として計上しているが未収になっているもの、前受金収入として前年度まで既に受け入れている本年度の学納金などを調整するための科目です。

(単位 千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,053,076	2,086,909	△33,833
手数料収入	34,263	26,897	7,366
寄付金収入	27,600	28,132	△532
補助金収入	631,472	604,101	27,371
資産売却収入	85,010	85,339	△329
付随事業・収益事業収入	643	1,277	△634
受取利息・配当金収入	1,519	1,574	△55
雑収入	7,842	24,393	△16,551
借入金等収入	70,540	58,000	12,540
前受金収入	949,302	907,200	42,102
その他の収入	58,171	58,996	△825
資金収入調整勘定	△907,820	△968,230	60,410
前年度繰越支払資金	2,504,479	2,504,479	
収入の部合計	5,516,097	5,419,069	97,028

在籍者数が見込みを上回ったため、予算比33,833千円増となりました。

新川校地の売却手続きが完了し、最終的に85,000千円の売却代金を収受しました。

コロナ禍の緩和により、外部団体への教室貸出が増加し、施設設備利用料収入が増加しました。

市中銀行より、正門横駐輪場整備資金58,000千円の借入を行いました。

(単位 千円)

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,337,263	1,331,981	5,282
教育研究経費支出	996,133	922,867	73,267
管理経費支出	108,414	96,220	12,194
借入金等利息支出	8,619	8,272	347
借入金等返済支出	80,960	113,960	△33,000
施設関係支出	77,915	19,847	58,069
設備関係支出	124,713	102,196	22,517
資産運用支出	61,000	63,166	△2,166
その他の支出	52,848	83,152	△30,304
予備費	(13,926)		
	1,074		1,074
資金支出調整勘定	△83,916	△103,086	19,169
翌年度繰越支払資金	2,751,074	2,780,494	△29,420
支出の部合計	5,516,097	5,419,069	97,028

コロナ禍の緩和により、教育研究活動に活気が戻ってきましたが、支出については、低く抑えることができました。

正門横駐輪場整備に係る借入金のつなぎ融資分について、長期借入金で相殺しましたが、勘定科目上の数字が計上されています。

まだ計画段階である固定資産の予算の執行を行わなかったため、決算額が少なくなりました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。

事業活動収支計算書は事業活動収入及び事業活動支出の内容とその均衡を明らかにする目的で作成します。収支を経常的な収支、臨時的な収支(特定収支)に分け、経常的な収支は更に教育活動収支と教育外活動収支に分けて把握することができるようにしています。

資金収支計算書ではなく事業活動収支計算書に表れる科目としては、減価償却額や退職給与引当金などがあります。

企業会計でいえば損益計算書に相当しますが、学校会計では営利目的ではなく、あくまでも収支均衡が目的となります。

【教育活動収支】

(単位 千円)

教育活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,053,076	2,086,909	△33,833
手数料	34,263	26,897	7,366
寄付金	27,600	28,401	△801
経常費補助金	631,472	604,101	27,371
付随事業収入	643	1,277	△634
雑収入	7,842	24,090	△16,248
教育活動収入計	2,754,896	2,771,674	△16,778
教育活動支出の部			
人件費	1,359,337	1,348,692	10,645
教育研究経費	1,195,249	1,129,402	65,847
管理経費	115,992	104,307	11,684
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,670,578	2,582,401	88,177
教育活動収支差額	84,318	189,274	△104,955

学校法人の本業である教育活動による収支を表します。

受験生の減少により、入学検定料収入が予算額を下回りました。

予見していなかった選択定年制による退職者があり、資金収支計算書には表れない退職給与引当金繰入額を予算より多く計上する必要があったことが影響しました。

【教育活動外収支】

(単位 千円)

事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	1,519	1,574	△55
教育活動外収入計	1,519	1,574	△55
事業活動支出の部			
借入金等利息	8,619	8,272	347
教育活動外支出計	8,619	8,272	347
教育活動外収支差額	△7,100	△6,698	△402

教育外活動収支は教育活動以外の財務活動(資金調達及び資産運用に係る活動)及び収益事業に係る活動による収支を表します。

【特別収支】

(単位 千円)

事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	281	△281
その他の特別収入	1,774	11,967	△10,193
特別収入計	1,774	12,248	△10,474
事業活動支出の部			
資産処分差額	46,509	67,937	△21,428
その他の特別支出	0	24	△24
特別支出計	46,509	67,961	△21,452
特別収支差額	△44,735	△55,712	10,977

特別収支は臨時的な収支を表すものです。施設設備補助金、現物寄付、過年度修正等の科目があります。

沖縄大学後援会より寄贈していただきました。新しいマイクロバスの車両本体価格8,078千円が含まれています。

新川校地の売却手続きが完了し、土地処分差額46,509千円を計上しました。

予備費	(4,298)		
	10,702		
基本金組入前当年度収支差額	21,781	126,863	△105,082
基本金組入額合計	0	△33,000	33,000
当年度収支差額	21,781	93,863	△72,082
前年度繰越収支差額	△1,681,058	△1,681,058	0
基本金取崩額	12,689	52,482	△39,792
翌年度繰越収支差額	△1,646,588	△1,534,713	△111,874

(3)貸借対照表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主な理由をご報告いたします。

貸借対照表は、年度末(2024年3月31日現在)における本法人の財政状況を明らかにするため、法人の保有する資産、負債、基本金及び翌年度繰越消費収支差額を一覧表示したものです。

資産の部

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	5,624,578	5,795,474	△170,896
有形固定資産	4,867,885	5,093,322	△225,437
特定資産	684,868	622,414	62,454
その他の固定資産	71,826	79,739	△7,913
流動資産	2,794,878	2,572,859	222,020
資産合計	8,419,457	8,368,333	51,124

固定資産の減少は、減価償却のほか、新川校地の売却や、本館1階大教室のAV機器入替に伴う除却分である。

このうち、現預金等の昨年度比増加額は、276,014千円でした。

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,123,092	1,100,166	22,926
流動負債	1,076,068	1,174,733	△98,666
負債合計	2,199,160	2,274,899	△75,739
基本金	7,755,010	7,774,492	△19,482
繰越収支差額	△1,534,713	△1,681,058	146,345
純資産合計	6,220,297	6,093,433	126,863
負債及び純資産の部合計	8,419,457	8,368,333	51,124

土地、建物に関する支出及び借入金返済、機器備品のリース支払い分が主な組入となります。

基本金について

学校法人は、設置する学校の教育研究やその他の諸活動を行うために校地、校舎、機器備品、図書等の資産を保有しています。そして、それら保有資産のうち教育研究に必要な資産は、教育水準の維持向上と円滑な法人運営を図る観点から常に維持しなければならないことになっています。法人が存続する限り、それらの資産を保有することとなりますが、事業計画の変更・見直し等により基本金の取り崩しが可能になっています。

このように、必要な資産の維持状況を表したものが基本金です。

注記

1.重要な会計方針

(1)引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能及び貸付金の回収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額664,111,522円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

(2)その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金その他経過項目に係る収入と支出は相殺して表示している。

2.重要な会計方針の変更等

該当なし

3.減価償却額の累計額の合計額 2,744,378,452 円

4.徴収不能引当金の合計額 0 円

5.担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土地 1,776,226,557 円

建物 1,603,788,898 円

6.翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

326,792,700 円

7.当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8.その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1)有価証券の時価情報

①総括表

(単位 円)

	当年度(2024年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	18,240,000	22,982,400	4,742,400
（うち満期保有目的の債券）	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	35,589,636	26,290,000	△ 9,299,636
（うち満期保有目的の債券）	-	-	-
合計	53,829,636	49,272,400	△ 4,557,236
（うち満期保有目的の債券）	-	-	-
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	53,829,636	-	-

②明細表

種類	当年度(2024年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	-	-	-
株式	53,829,636	49,272,400	△ 4,557,236
投資信託	-	-	-
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合計	53,829,636	49,272,400	△ 4,557,236
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	53,829,636	-	-

(2)関連当事者との取引

該当なし

(4) 経年比較表

① 資金収支計算書

(単位:千円)

資金収支計算書			
科目	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒納付金収入	1,918,519	2,084,279	2,086,909
手数料収入	33,309	31,121	26,897
寄付金収入	27,993	25,903	28,132
補助金収入	565,986	590,408	604,101
資産売却収入	623	892	85,339
付随事業・収益事業収入	44,508	38,172	1,277
受取利息・配当金収入	1,667	1,583	1,574
雑収入	70,667	63,727	24,393
借入金等収入	0	37,460	58,000
前受金収入	966,302	907,820	907,200
その他の収入	68,427	58,055	58,996
資金収入調整勘定	△ 957,474	△ 1,007,438	△ 968,230
前年度繰越支払資金	2,362,621	2,437,306	2,504,479
収入の部合計	5,103,148	5,269,289	5,419,069
人件費支出	1,409,217	1,385,506	1,331,981
教育研究経費支出	866,936	920,874	922,867
管理経費支出	94,755	99,425	96,220
借入金等利息支出	9,925	9,340	8,272
借入金等返済支出	71,600	71,600	113,960
施設関係支出	110,229	112,467	19,847
設備関係支出	54,917	64,552	102,196
資産運用支出	40,401	61,807	63,166
その他の支出	78,449	83,328	83,152
資金支出調整勘定	△ 70,586	△ 44,089	△ 103,086
翌年度繰越支払資金	2,437,306	2,504,479	2,780,494
支出の部合計	5,103,148	5,269,289	5,419,069

②事業活動収支計算書

【教育活動収支】

(単位:千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	1,918,519	2,084,279	2,086,909
手数料	33,309	31,121	26,897
寄付金	27,993	25,903	28,401
経常費補助金	565,986	590,408	604,101
付随事業収入	44,508	38,172	1,277
雑収入	70,662	63,727	24,090
教育活動収入計	2,660,977	2,833,611	2,771,674
事業活動支出の部			
人件費	1,407,453	1,469,635	1,348,692
教育研究経費	1,082,793	1,127,375	1,129,402
管理経費	104,063	107,759	104,307
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,594,309	2,704,769	2,582,401
教育活動収支差額	66,668	128,843	189,274

【教育活動外収支】

(単位:千円)

科目	2021年度	2022年度	2023年度
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	1,667	1,583	1,574
教育活動外収入計	1,667	1,583	1,574
事業活動支出の部			
借入金等利息	9,925	9,340	8,272
教育活動外支出計	9,925	9,340	8,272
教育活動外収支差額	△ 8,258	△ 7,757	△ 6,698

【特別収支】

(単位:千円)

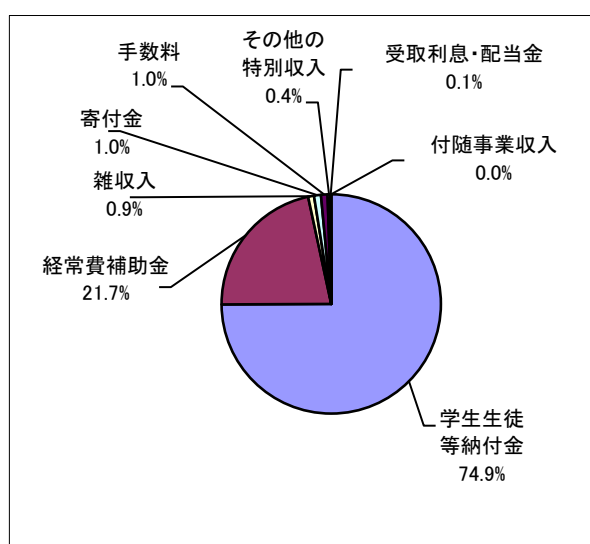
科目	2021年度	2022年度	2023年度
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	9	281
その他の特別収入	1,790	3,363	11,967
特別収入計	1,790	3,372	12,248
事業活動支出の部			
資産処分差額	14,797	11,419	67,937
その他の特別支出	29	0	24
特別支出計	14,827	11,419	67,961
特別収支差額	△ 13,037	△ 8,047	△ 55,712

科目	2021年度	2022年度	2023年度
基本金組入前当年度収支差額	45,372	113,039	126,863
基本金組入額合計	△ 188,185	△ 192,476	△ 33,000
当年度収支差差額	△ 142,812	△ 79,437	93,863
前年度繰越収支差額	△ 1,458,809	△ 1,601,621	△ 1,681,058
基本金取崩額	0	0	52,482
翌年度繰越収支差額	△ 1,601,621	△ 1,681,058	△ 1,534,713

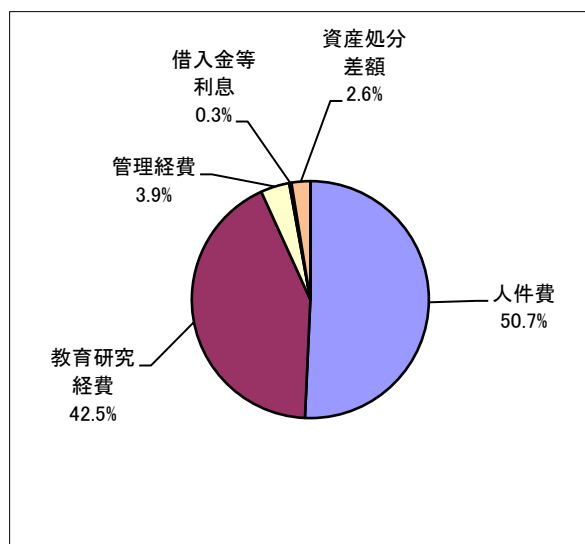
(参考)

事業活動収入計	2,664,443	2,838,566	2,785,497
事業活動支出計	2,619,060	2,725,527	2,658,634
経常収入	2,662,643	2,835,194	2,773,249
経常支出	2,604,234	2,714,108	2,590,673

事業活動収入構成比率(総額:2,785,497千円)



事業活動支出構成比率(総額:2,667,032千円)



③貸借対照表

貸借対照表			
科目	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産	(5,782,285)	(5,795,474)	(5,624,578)
有形固定資産	5,131,821	5,093,322	4,867,885
特定資産	561,499	622,414	684,868
その他の固定資産	88,965	79,739	71,826
流動資産	(2,501,393)	(2,572,859)	(2,794,878)
現金預金	2,437,306	2,504,479	2,780,494
その他の流動資産	64,087	68,379	14,384
資産の部合計	8,283,678	8,368,333	8,419,457
固定負債	(1,126,059)	(1,100,166)	(1,123,092)
流動負債	(1,177,214)	(1,174,733)	(1,076,068)
前受金	1,008,792	967,320	907,200
その他の流動負債	168,422	207,413	168,868
負債の部合計	2,303,273	2,274,899	2,199,160
基本金	(7,582,016)	(7,774,492)	(7,755,010)
第1号基本金	7,191,016	7,353,492	7,301,010
第2号基本金	200,000	230,000	260,000
第4号基本金	191,000	191,000	194,000
繰越収支差額	(△1,601,611)	(△1,681,058)	(△1,534,713)
純資産の部合計	5,980,404	6,093,433	6,220,297
負債及び純資産の部合計	8,283,678	8,368,333	8,419,457

(5) 主要な財務比較

事業活動収支計算書				貸借対照表			
指標	2021年度	2022年度	2023年度	指標	2021年度	2022年度	2023年度
人件費比率 人件費÷経常収入	52.9	51.8	48.6	固定資産構成比率 固定資産÷総資産	69.8	69.3	66.8
人件費依存率 人件費÷学生生徒等納付金	73.4	70.5	64.6	有形固定資産構成比率 有形固定資産÷総資産	62.0	60.9	57.8
教育研究費比率 教育経費÷経常収入	40.7	39.8	40.7	特定資産構成比率 特定資産÷総資産	6.8	7.4	8.1
管理経費比率 管理経費÷経常収入	3.9	3.8	3.8	固定負債構成比率 固定負債÷ (負債+純資産)	13.6	13.1	13.3
借入金等利息比率 借入金利息÷経常収入	0.4	0.3	0.3	流動負債比率 流動負債÷ (負債+純資産)	14.2	14.0	12.8
事業活動収支差額比率 基本金組入前当年度収支差額 ÷事業活動収入	1.7	4.0	4.6	純資産構成比率 純資産÷ (負債+純資産)	72.2	72.8	73.9
基本金組入後収支比率 事業活動支出÷(事業活動収入- 基本金組入額合計)	105.8	103.0	96.6	繰越収支差額比率 繰越収支差額÷ (負債+純資産)	△ 19.3	△ 20.1	△ 18.2
学生生徒納付金比率 学生生徒等納付金÷経常収入	72.1	73.5	75.3	固定比率 固定資産÷純資産	96.7	95.1	90.4
寄付金比率 寄付金÷事業活動収入	1.1	0.9	1.0	固定長期適合率 固定資産÷(固定負債+純資産)	81.4	80.6	76.6
経常寄付金比率 (教育活動収支の寄付金)÷ 経常収入	1.1	0.9	1.0	流動比率 流動資産÷流動負債	212.5	219.0	259.7
補助金比率 補助金÷事業活動収入	21.2	20.8	21.7	総負債比率 総負債÷総資産	27.8	27.2	26.1
経常補助金比率 (教育活動収支の補助金)÷ 経常収入	21.3	20.8	21.8	前受金保有率 現金預金÷前受金	241.6	258.9	306.5
基本金組入率 基本金組入額÷事業活動収入	7.1	6.8	1.2	減価償却比率 減価償却累計額÷ 減価償却資産取得価額	48.7	51.0	53.9
減価償却額比率 減価償却額÷経常支出	8.6	7.9	8.3	積立率 運用資産÷要積立額	99.6	81.6	98.7
経常収支差額比率 経常収支差額÷経常収入	2.2	4.3	6.6	運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券 要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋ 2号基本金＋3号基本金			
教育活動収支差額比率 教育活動収支差額÷ 教育活動収入計	2.5	4.5	6.8				

経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
 経常支出＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

(6) 事業活動収支関連グラフ

